



# Acronis Backup & Recovery 11

Update 0

## インストール ガイド

### 適用されるエディション

- Advanced Server
- Virtual Edition
- Advanced Server SBS Edition
- Advanced Workstation
- Server for Linux
- Server for Windows
- Workstation

Copyright © Acronis, Inc., 2000-2011. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis Secure Zone」は、Acronis Inc. の登録商品です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis リカバリ マネージャ」、「Acronis Active Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis, Inc. の商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態(紙媒体など)であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません(免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く)。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、<http://kb.acronis.com/content/7696> をご参照ください。

# 目次

<b>1</b>	<b>インストールする前に</b> .....	<b>5</b>
1.1	ライセンスの種類(スタンドアロン エディションと アドバンスド エディション).....	5
1.2	Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネント.....	6
1.2.1	エージェント for Windows.....	6
1.2.2	エージェント for Linux.....	7
1.2.3	エージェント for VMware vSphere ESX(i).....	8
1.2.4	エージェント for Hyper-V.....	8
1.2.5	集中管理用のコンポーネント.....	8
1.2.6	管理コンソール.....	10
1.2.7	ブータブル メディア ビルダ.....	10
1.2.8	Acronis Wake-On-LAN プロキシ.....	11
1.3	アドバンスド エディションのライセンス.....	11
1.3.1	必要となるライセンスの数.....	12
1.3.2	仮想コンピュータのライセンス.....	12
1.4	サポートされるオペレーティング システム.....	12
1.5	システム要件.....	14
<b>2</b>	<b>Acronis Backup &amp; Recovery 11 のインストール</b> .....	<b>17</b>
2.1	Windows でのインストール.....	17
2.1.1	Windows におけるインストール方法.....	17
2.1.2	ローカル インストール.....	19
2.1.3	リモート インストール.....	27
2.1.4	グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール.....	30
2.1.5	コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ.....	34
2.1.6	管理サーバーの Web ページからのインストール.....	36
2.1.7	Windows におけるインストール例.....	41
2.1.8	Acronis ライセンス サーバーのインストール.....	42
2.2	Linux でのインストール.....	43
2.2.1	準備.....	43
2.2.2	アドバンスド エディションでの対話型インストール.....	44
2.2.3	無人モードでのインストール.....	45
2.2.4	コマンドライン パラメータ.....	45
2.3	エージェント for ESX(i) のインストール.....	48
2.3.1	エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)のインポート.....	51
2.3.2	エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)のアップデート.....	53
2.4	エージェント for Hyper-V のインストール.....	54
<b>3</b>	<b>試用版から完全製品版へのアップグレード</b> .....	<b>56</b>
3.1	試用版の制限.....	56
3.2	ライセンスの変更.....	56
<b>4</b>	<b>ソフトウェアのアップデートの確認</b> .....	<b>58</b>
<b>5</b>	<b>Acronis Backup &amp; Recovery 11 のアンインストール</b> .....	<b>59</b>
5.1	Acronis Backup & Recovery 11 の アドバンスド エディションのアンインストール.....	59
5.1.1	Windows でのアンインストール.....	59

5.1.2	Linux でのアンインストール.....	61
5.2	ESX(i) 仮想アプライアンスの削除.....	61
5.3	Acronis セキュア ゾーンの削除.....	62

# 1 インストールする前に

このセクションでは、製品のインストール前に生じることが予想される疑問点について説明します。

## 1.1 ライセンスの種類(スタンドアロン エディションと アドバンスド エディション)

Acronis Backup & Recovery 11 のライセンスは、製品によってバックアップするコンピュータの数に基づきます。

### スタンドアロン エディション

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11 Server for Windows
- Acronis Backup & Recovery 11 Server for Linux
- Acronis Backup & Recovery 11 Workstation

スタンドアロン エディションは、単一のコンピュータのデータをバックアップするためのものです。上記のライセンスがあれば、すべての製品コンポーネントを同じコンピュータにインストールできます。製品にインストール中に、上記のエディションのいずれかのプロダクト キーを要求されます。

### Advanced エディション(集中管理を伴うエディション)

次のエディションがあります。

- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server
- Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition
- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server SBS Edition
- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Workstation

これらのエディションは、複数のコンピュータをバックアップするためのものです。これらのエディションには、バックアップ対象のコンピュータにインストールする必要があるコンポーネントに加え、集中管理を可能にする管理サーバー、およびバックアップしたデータを保存するためのストレージ ノードが含まれています。スタンドアロン エディションとは異なり、アドバンスド エディションではバックアップされたコンピュータにリモート接続できます。

スタンドアロン エディションと同様、バックアップするコンピュータそれぞれのライセンスが必要です。ライセンスが必要なコンポーネント(エージェント)のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。他のコンポーネントのインストールにライセンスは必要ありません。たとえば、ストレージ ノードは最大 50 までの必要な数をインストールすることが可能です。

---

スタンドアロン エディションのコンポーネントが、アドバンスド エディションのコンポーネントとやり取りをすることはありません。

---

## 1.2 Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 11 のすべてのコンポーネントとその機能の概要について説明します。

Acronis Backup & Recovery 11 には、主に次の種類のコンポーネントがあります。

### 管理対象のコンピュータ用のコンポーネント(エージェント)

これらは、Acronis Backup & Recovery 11 によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。エージェントには追加の機能を実行できるようにする複数の機能またはアドオンが含まれているので、追加のライセンスが必要になることがあります。

### 集中管理用のコンポーネント

これらのコンポーネントは、アドバンスド エディションで提供され、集中管理機能を備えています。これらのコンポーネントの使用にライセンスは必要ありません。

### コンソール

コンソールにはグラフィカル ユーザー インターフェイスが装備され、エージェントや他の Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントにリモートから接続することができます。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。

### ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。

エージェントとともにインストールされた場合、ブータブル メディア ビルダにはライセンスが必要ありません。インストールされた場合、エージェントへのすべてのアドオンがレスキュー環境で利用可能になります。エージェントなしでコンピュータにメディア ビルダをインストールするには、プロダクトキーを入力するか、ライセンス サーバーに少なくとも 1 件のライセンスを所有している必要があります。ライセンスは利用可能な場合と割り当てられる場合があります。

### 1.2.1 エージェント for Windows

このエージェントを使用して、Windows の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

#### ディスクのバックアップ

ディスク レベルでのデータ保護は、ディスク全体またはボリューム ファイル システム全体と、オペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、または、セクタ単位のバックアップを使用したすべてのディスク セクタのバックアップ(RAW モード)を基にしています。ディスクまたはボリュームのコピーがパッケージ モードで格納されているバックアップを、ディスク(ボリューム)バックアップまたはディスク(ボリューム)イメージと呼びます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体をリカバリすることも個別のフォルダやファイルをリカバリすることもできます。

## ファイルのバックアップ

ファイル レベルでのデータ保護は、エージェントがインストールされているコンピュータ、またはネットワーク共有上にあるファイルおよびフォルダのバックアップに基づいています。ファイルは、元の場所にも他の場所にも復元できます。バックアップしたすべてのファイルおよびフォルダを復元したり、復元する対象を選択することが可能です。

## その他の操作

### 仮想コンピュータへの変換

ディスク バックアップを仮想ディスク ファイルに変換すると追加の操作によって仮想ディスクを使用可能にする必要があるため、エージェント for Windows では、VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Parallels Workstation、Citrix XenServer オープン仮想アプライアンス(OVA)、Red Hat Kernel-based Virtual Machine(KVM)の新しい仮想コンピュータにディスク バックアップを復元する方法で変換を実行します。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したフォルダに保存されます。それぞれの仮想化ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

### ディスクの管理

エージェント for Windows には、Acronis Disk Director Lite(使いやすいディスク管理ユーティリティ)が用意されています。ディスクのクローン作成、ディスクの変換、ボリュームの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームの削除などのディスク管理操作、および MBR と GPT の間のディスクパーティション スタイルの変更、ディスク ラベルの変更などの操作は、オペレーティング システムで実行するかブータブル メディアを使用して実行することができます。

## Universal Restore

Universal Restore アドオンを使用すると、エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどのオペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

## Deduplication

エージェントでこのアドオンを使用すると、Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードによって管理されている重複除外格納域にデータをバックアップすることができます。

## 1.2.2 エージェント for Linux

このエージェントを使用して、Linux の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

### ディスク バックアップ

ディスク レベルのデータ保護では、ディスクまたはボリューム ファイル システム全体とオペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、またはセクタ単位でのすべてのディスク セクタのバックアップ(RAW モード)が基本になります。ディスクまたはボリュームのコピーを含むパッケージ形式のバックアップは、ディスク(ボリューム) バックアップまたはディスク(ボリューム) イメージと呼ばれます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

## ファイル バックアップ

ファイル レベルのデータ保護では、エージェントがインストールされているコンピュータ上あるいは smb または nfs プロトコルを使用してアクセスされるネットワーク共有上に存在するファイルおよびディレクトリのバックアップが基本になります。ファイルは、元の場所にも別の場所にも復元できます。バックアップされたすべてのファイルとディレクトリを復元することも個別に選択して復元することもできます。

## Universal Restore

Universal Restore アドオンを使用すると、エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどのオペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

## Deduplication

エージェントでこのアドオンを使用すると、Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードによって管理されている重複除外格納域にデータをバックアップすることができます。

### 1.2.3 エージェント for VMware vSphere ESX(i)

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i) では、ゲスト システムにエージェントをインストールしなくても、ESX(i) 仮想コンピュータのバックアップと復元を実行できます。このバックアップ方法は、エージェントレス バックアップまたはハイパーバイザ レベルのバックアップと呼ばれています。

このエージェントは、次の 2 つのバージョンで提供されます。

- エージェント for VMware vSphere ESX(i)(仮想アプライアンス)は、VMware ESX(i) ホストにインポートまたは配置することができます。
- バックアップの負荷を軽減するために、エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows) を Windows コンピュータにインストールすることができます。

本ドキュメントでは今後、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i) をエージェント for ESX(i) と呼びます。

### 1.2.4 エージェント for Hyper-V

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Hyper-V は、Hyper-V 仮想サーバー内の仮想コンピュータを保護します。このエージェントを使用すると、各仮想コンピュータにエージェントをインストールしなくても、ホストから仮想コンピュータをバックアップすることができます。このエージェントは、Windows 2008 Server x64(すべてのエディション)または Microsoft Hyper-V Server 2008 に、インストールされます。

### 1.2.5 集中管理用のコンポーネント

ここでは、Acronis Backup & Recovery 11 のエディションに含まれ、集中管理機能を提供するコンポーネントについて説明します。これらのコンポーネントに加えて、データ保護が必要なすべてのコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 エージェントをインストールする必要があります。

## 管理サーバー

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーは、企業ネットワーク内のデータ保護を管理する中央サーバーです。次の機能を管理者に提供します。

- Acronis Backup & Recovery 11 インフラストラクチャへの単一のエントリ ポイント
- 集中管理されるバックアップ計画とグループを使用して、多数のコンピュータ上のデータを簡単に保護する方法
- 仮想コンピュータの検出/保護を目的とした VMware vCenter との統合
- 全社規模の監視およびレポート機能
- ビルトインのライセンス管理
- 全社のバックアップ アーカイブを保存するための集中管理用格納域を作成する機能
- ストレージ ノードを管理する機能
- ストレージ ノードに保存されるすべてのデータが集中管理されるカタログ

ネットワーク上に複数の管理サーバーがある場合、それらのサーバーは独立して動作し、異なるコンピュータを管理し、異なる集中管理用格納域を使用してアーカイブを保存します。

## ストレージ ノード

Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードは、企業データの保護に必要なさまざまなリソース(企業のストレージ容量、ネットワーク帯域幅、管理対象のコンピュータの CPU 負荷など)の使用を最適化するように設計されたサーバーです。この目的は、企業のバックアップ アーカイブ(管理対象の格納域)の専用ストレージとして機能する場所の作成と管理によって達成されます。

ストレージ ノードの最も重要な機能は、格納域に保存されるバックアップの重複除外です。つまり、同一のデータはこの格納域に一度のみバックアップされます。この方法により、バックアップ中のネットワーク使用量およびアーカイブによって使用されるストレージ容量が最小限に抑えます。

ストレージ ノードを使用すると、ハードウェア サポートの観点から拡張性と柔軟性に優れたストレージ インフラストラクチャを作成することができます。最大 50 のストレージ ノードを設定することが可能で、それぞれのノードが最大 20 の格納域を管理することができます。

管理者は、Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバー (9ページ)からストレージ ノードを集中的に制御します。コンソールをストレージ ノードに直接接続することはできません。

## リモート インストールのコンポーネント

リモート インストール ウィザードで使用される Acronis コンポーネント インストール ファイルがあります。セットアップ プログラムはこれらのファイルをデフォルトの場所に保存し、この場所へのパスをレジストリに保存します。その結果、これらのコンポーネントは「登録済みコンポーネント」として、リモート インストール ウィザードで簡単に使用できるようになります。

### コンポーネントのインストールを無効化するには

セットアップ プログラムで [リモート コンピュータに接続する] または [集中的に監視および構成する] チェック ボックスをオンにすると、リモート インストールのコンポーネントがデフォルトで選択されます。インストール ファイルは約 600 MB のディスク容量を必要とするため、コンソールのインストール時には、コンソールのローカルでの保存を禁止することができます。たとえば、インストール ファイルは、共有フォルダに抽出することができます。これらのファイルは、ネットワークで動作する管理コンソールで利用できるようになります。リモート インストール ウィザードでは、「登録済みのコンポーネント」を選択するのではなく、共有フォルダのパスを指定します。

インストール ファイルのローカルでの保存を禁止するには、**[Acronis コンポーネントを手動で選択する]** チェック ボックスをオンにして、次のウィンドウで **[リモート インストールのコンポーネント]** チェック ボックスをオフにします。

## PXE サーバー

Acronis PXE サーバーを使用すると、ネットワーク経由で Acronis ブータブル コンポーネントを使用してコンピュータを起動することができます。

ネットワーク ブートには次の利点があります。

- 起動する必要があるシステムにブータブル メディアをインストールする技術者を現地で待機させる必要がなくなります。
- グループ操作の実行では、物理的なブータブル メディアを使用するときと比べて、複数のコンピュータを起動するのに必要な時間が短縮されます。

## ライセンス サーバー

ライセンス サーバーを使用すると、Acronis 製品のライセンスを管理して、ライセンスが必要なコンポーネントをインストールすることができます。

Acronis ライセンス サーバーの詳細については、「Acronis ライセンス サーバーの使用」をご参照ください。

### 1.2.6 管理コンソール

Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールは、Acronis Backup & Recovery 11 エージェントにリモートまたはローカルでアクセスするための管理ツールで、集中管理機能を備えたエディションは Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーへのアクセスにも使用します。

コンソールには、Windows および Linux にインストールする 2 つのディストリビューションがあります。どちらのディストリビューションでも任意の Acronis Backup & Recovery 11 エージェントおよび Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーに接続できますが、どちらか選択できる場合は Windows 用のコンソールを使用することをお勧めします。Linux にインストールするコンソールの機能には次のような制限があります。

- Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントをリモート インストールできません。
- Active Directory の参照などの Active Directory 関連の機能を使用できません。

### 1.2.7 ブータブル メディア ビルダ

Acronis ブータブル メディア ビルダは、ブータブル メディアを作成するための専用のツールです。Windows および Linux にインストールする 2 つのメディア ビルダ ディストリビューションがあります。

Windows 上にインストールするメディア ビルダは、Windows プレインストール環境、または Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。Linux 上にインストールするメディア ビルダは、Linux カーネルをベースにしたブータブル メディアを作成できます。

Universal Restore (7ページ) アドオンを使用して、異なるハードウェアの復元機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどのオペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

Deduplication (7ページ) アドオンを使用して、非重複化された格納域のバックアップ機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。このアドオンは、どちらのメディア ビルダ ディストリビューションにもインストールできます。

## 1.2.8 Acronis Wake-On-LAN プロキシ

Acronis Wake-On-LAN プロキシを使用すると、他のサブネットにあるコンピュータをバックアップする場合に Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーを起動できます。Acronis Wake-On-LAN プロキシは、バックアップするコンピュータが配置されているサブネット内の任意のサーバーにインストールできます。

## 1.3 アドバンスド エディションのライセンス

### Acronis ライセンス サーバー

アドバンスド エディションのライセンスは、Acronis ライセンス サーバーによって管理されます。ライセンス サーバーを個別のコンポーネントとしてインストールする (42ページ) ことも、管理サーバーに統合されたものを使用することも可能です。ライセンス サーバーの機能は、どちらの種類もインストールでも同じです。

Acronis ライセンス サーバーは、.txt ファイルまたは .eml ファイルから複数のプロダクト キーをインポートできるため、数字の入力作業にかかる時間を短縮することができます。

### インストール中におけるライセンスの指定

ライセンスが必要なコンポーネント(エージェント)のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。管理サーバーにコンピュータを登録すると、手動で入力したキーはサーバーにインポートされ、ライセンスの一覧に表示されます。

次の場合、ライセンスやライセンス サーバーを指定することなくエージェントをインストールできません。

- オンライン バックアップ専用本ソフトウェアをインストールする場合: オンライン バックアップではライセンスは不要ですが、Acronis Backup & Recovery 11 サービスのサブスクリプションは必要です。
- エージェント for VMware vSphere ESX(i) (8ページ)(両方のバージョン)をインストールする場合: 指定した仮想コンピュータのバックアップ開始時にライセンスが消費されます。仮想コンピュータがバックアップ対象として選択されているホストごとに、1 つの Virtual Edition ライセンスが必要です。

### ライセンスの確認

Acronis エージェントは、エージェント サービスが開始されるたびに Acronis ライセンス サーバーに接続し、以降はエージェントの設定パラメータに従って、1~5 日ごとに接続します。エージェントをライセンス サーバーに接続できない場合、アラートが開始します。エージェントは、ライセンス サーバーがなくても 1~60 日間(構成パラメータで指定された日数)機能します。この期間を過ぎると、ライセンスの確認が正常に完了するまで機能が停止します。

エージェントがライセンス サーバーに接続されていても、適切なライセンスがない場合は、別のライセンスを取得しようとします。利用可能なライセンスがない場合、エージェントはライセンスの取得が正常に完了するまで機能を停止します。

デフォルトでは、エージェントはライセンス サーバーに対して毎日接続を試行し、ライセンス サーバーがなくても 30 日間機能します。

### 1.3.1 必要となるライセンスの数

会社のネットワークが、Windows を実行する 1 台のサーバーと 5 台のワークステーションで構成されているとします。すべてのコンピュータは、1 つの場所からバックアップを設定および監視する管理者によってバックアップされます。そのためには、アドバンスド エディションのライセンスを検討する必要があります。ライセンスにかかる費用は、本ソフトウェアがインストールされているオペレーティング システムによって異なります。

すべてのコンピュータを保護するためには、次のライセンスが必要です。

- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Workstation のライセンス 5 個
- サーバーで実行されているオペレーティング システムに応じて、Acronis Backup & Recovery 11 Advanced サーバーまたは Advanced サーバー SBS エディションのライセンス 1 個

### 1.3.2 仮想コンピュータのライセンス

アクロニスでは、仮想コンピュータ用に特別なライセンス ポリシーをご提供しています。

- Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server のライセンスでは、1 つの物理ホストと 4 つの仮想コンピュータをバックアップすることができます。
- Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition のライセンスによって、1 つの物理ホストと、無制限の数のホスト済み仮想コンピュータをバックアップすることができます。本製品をゲストシステムにインストールすることも、ホストからそれらのゲスト システムをバックアップすることも、両方の方法を組み合わせることもできます。

エージェント for VMware vSphere ESX(i)(両方のバージョン)は、ライセンスまたはライセンスサーバーを指定することなくインストールできます。バックアップ計画を作成する場合、仮想コンピュータがバックアップ対象として選択されているホストごとに、1 つの Virtual Edition ライセンスが必要です。

## 1.4 サポートされるオペレーティング システム

### 管理対象のコンピュータのコンポーネント

#### Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows

##### Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server

##### Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server Virtual

Windows XP Professional SP2 以降(x86、x64)

Windows 2000 SP4: Datacenter を除くすべてのエディション

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション(x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010

Windows Small Business Server 2011

### **Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server SBS Edition**

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Small Business Server 2008

Windows Small Business Server 2011

### **Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Workstation**

Windows 2000 Professional SP4

Windows XP Professional SP2 以降(x86、x64)

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション(x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)

## **Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux**

### **Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server**

#### **Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server Virtual**

Linux: 2.4.20 以降のカーネル(2.6.x カーネルを含む)および glibc 2.3.2 以降

以下を含む、各種 32 ビットおよび 64 ビット Linux ディストリビューション

Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、および 6.x

Ubuntu 9.10(Karmic Koala)、10.04(Lucid Lynx)、および 10.10

Fedora 11、12、13、14

SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11

Debian 4(Lenny)および 5(Etch)

CentOS 5

RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム(Ubuntu システムなど)に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。 [apt-get install rpm](#)

## **Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Hyper-V**

Windows Server 2008/2008 R2(x64)(Hyper-V 使用)

Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2

## **Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)**

このエージェントは、ESX(i) ホストで実行する仮想アプライアンスとして提供されます。

VMware ESX Infrastructure 3.5 Update 2 以降

VMware ESX(i) 4.0 および 4.1

## **Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for ESX(i)(Windows)**

このエージェントは、上記のエージェント for Windows(Advanced Server Virtual)のオペレーティング システムで実行する Windows アプリケーションとして提供されます。

## 集中管理用のコンポーネント

### Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバー、Acronis ライセンス サーバー、Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノード

Windows XP Professional SP3(x86、x64)

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション(x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション(x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010

Windows Small Business Server 2011

### Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール

Windows XP Professional SP2 以降(x86、x64)

Windows 2000 SP4: Datacenter を除くすべてのエディション

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Vista: すべてのエディション(x86、x64)

Windows 7: すべてのエディション(x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise の各エディション(x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010

Windows Small Business Server 2011

## 1.5 システム要件

### オペレーティング システム内にインストールされるコンポーネント

コンポーネント	メモリ(OS および実行中のアプリケーションに加えて必要な容量)	インストールまたはアップデートに必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	その他
<b>Windows にインストールされるコンポーネント</b>				
完全インストール	300 MB	3.6 GB	1.99 GB SQL Express Server を含む	
エージェント for Windows	120 MB	1.3 GB	425 MB	

エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)	「エージェント for Windows」を参照してください。	1.3 GB	450 MB	
エージェント for Hyper-V	「エージェント for Windows」を参照してください。	50 MB	20 MB	
ブータブル メディア ビルダ	80 MB	1.1 GB	305 MB	CD-RW または DVD-RW ドライブ
管理コンソール	30 MB	950 MB	110 MB	画面解像度 1024 x 768 ピクセル以上
管理サーバー	40 MB	440 MB SQL Express Server 用に 400 MB	245 MB SQL Express Server 用に 400 MB	
Wake-on-LAN プロキシ	少量	50 MB	10 MB	
ストレージ ノード (一般的な要件)	100 MB (7.5 GB を推奨)	350 MB	185 MB テープ ライブラリを使用する場合、テープ データベース用に必要なディスク領域はアーカイブ 10 個につき約 1 MB	
ストレージ ノード (重複除外を使用する場合の推奨)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 最低 8 GB の RAM。</li> <li>▪ 64 ビット プラットフォーム。32 ビットのシステムで効果的に処理できるのは 400 GB 以下の重複のないデータです。</li> </ul> <p>詳細については、製品ヘルプまたはユーザー ガイドの「重複除外に関するベストプラクティス」を参照してください。</p>			
ライセンス サーバー	少量	50 MB	20 MB	
PXE サーバー	5 MB	80 MB	20 MB	
<b>Linux にインストールされるコンポーネント</b>				
完全インストール	160 MB	895 MB	485 MB	
エージェント for Linux	65 MB	255 MB	160 MB	
ブータブル メディア ビルダ	70 MB	495 MB	270 MB	
管理コンソール	25 MB	145 MB	90 MB	
<b>VMware ESX(i) サーバーにインストールされるコンポーネント</b>				
エージェント for VMware vSphere ESX(i)(仮想アプライアンス)	1 GB (仮想アプライアンスのメモリ設定)	5 GB	5 GB	CPU 番号: 2(デフォルトの仮想アプライアンス設定) 4 ~ 8(5 ~ 10)

				の VM を同時に バックアップする 場合に推奨) CPU 予約: 300 MHz 以上を推奨
--	--	--	--	---

ネットワーク インターフェイス カードまたは仮想ネットワーク アダプタは、すべてのコンポーネントに必要です。

### ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	その他
Windows PE ベース	640 MB	300 MB	
Linux ベース	512 MB	310 MB	

## 2 Acronis Backup & Recovery 11 のインストール

このセクションでは、製品のインストール時に生じることが予想される疑問点について説明します。

### 2.1 Windows でのインストール

ここでは、Windows を実行しているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントをインストールする方法について説明します。

#### 2.1.1 Windows におけるインストール方法

Acronis Backup & Recovery 11 アドバンスド エディションの各コンポーネントは、様々な方法でインストールすることができます。ご使用の環境のサイズおよび構造に基づき、このセクションで説明するインストール方法のいずれかを選択してください。

複数のインストール方法を組み合わせることも可能です。たとえば、管理コンソールと管理サーバーの対話型インストールを実行してから、リモートでエージェントを複数のコンピュータにインストールすることができます。

対話型または Web ベースのインストールを使用することによって、あらゆるコンポーネントをインストールすることが可能です。その他のインストール方法は、主に、エージェントをインストールするためのものです。

#### 対話型インストール (19ページ)

対話型インストールでは、自己完結型セットアップ プログラムを実行して、画面に表示される指示に従います。

**利点:** セットアップ プログラムに、Windows のすべてのコンポーネントが含まれています。

**欠点:** セットアップ プログラムのサイズが大きくなります。

#### 使用例:

- 管理コンソール、管理サーバー、およびストレージ ノードをインストールできます。
- 少数のコンピュータにエージェントをインストールできます。

#### Web ベースのインストール (24ページ)

Web ベースのインストールでは、軽量のセットアップ プログラムを実行して、画面に表示される指示に従います。インストールの対象として選択したコンポーネントのみがセットアップ プログラムによってアクロニスの Web サイトからダウンロードされます。

**利点:** セットアップ プログラムのサイズが小さくなります。

**欠点:** 同じデータがインターネット経由で大量に転送される可能性があります(たとえば、複数のコンピュータにエージェントをインストールする場合)。このような欠点を克服するには、ネットワーク フォルダにダウンロードされたインストール ファイルを保存 (24ページ)します。

**使用例:**インターネットへアクセスが低速な小規模のネットワークでエージェントをインストールできません(アクロニスの Web サイトから大きなセットアップ プログラムをダウンロードする必要はありません)。

### リモート インストール (27ページ)

**前提条件:** 管理コンソールを事前にインストールしておく必要があります。

リモート インストールでは、複数のコンピュータにリモートでソフトウェアをインストールします。管理コンソールの [ようこそ] 画面から、または、管理サーバーにコンピュータを追加する際に実行できます。

**利点:** 管理者がインストールの実行を集中管理できます。エンド ユーザーが意識する必要はありません。

**欠点:** インストールの前に、インストール先のコンピュータで複数の準備手順 (27ページ)を実行する必要があります。

**使用例:**

- ローカル ネットワーク内の多数のコンピュータにエージェントをインストールできます。
- エージェントが存在しないコンピュータを管理サーバーに追加できます。

### 無人インストール (24ページ)

無人インストールでは、コマンドライン パラメータを指定してインストール パッケージ(.msi ファイル)を実行します。

**利点:** インストールを、スクリプトによって実行できます。

**欠点:** インストールの設定の難易度が高くなります(トランスフォーム、つまり .mst ファイルの作成が必要になる場合があります)。

**使用例:** Windows を稼動している多数のコンピュータにエージェントをインストールします。

### グループ ポリシーを使用したインストール (30ページ)

グループ ポリシーを使用したインストールでは、グループ ポリシーを使用することによって、Active Directory ドメインにインストール パッケージ(.msi ファイル)を配置します。

**利点:** ドメイン全体で管理者が集中的にインストールを実行できます。インストールはシステム アカウントで実行されます。エンド ユーザーが意識する必要はありません。

**欠点:** インストールの設定の難易度が高くなります(トランスフォーム、つまり .mst ファイルの作成が必要になる場合があります)。コンピュータがドメイン内に存在している必要があります。

**使用例:** Active Directory ドメイン内の多数のコンピュータにエージェントをインストールします。

### 管理サーバーの Web ページからのインストール (36ページ)

**前提条件:** 管理サーバーを事前にインストールしておく必要があります。

管理サーバーの Web ページからのインストールでは、管理サーバーの Web ページに移動してソフトウェアをインストールします。インストール設定を指定する必要はありません。

## 利点:

- サポート対象の Web ブラウザを搭載したコンピュータであれば、エンド ユーザーはどのコンピュータでもインストールを実行できます。
- コンポーネントが、インターネット経由ではなく、ローカル ネットワークからダウンロードされます。
- エンド ユーザーは、インストール設定を指定する必要がありません。
- コンピュータを、管理サーバーに自動的に登録できます。

**欠点:** コンピュータにソフトウェアをインストールする権限がエンド ユーザーに必要です(そのコンピュータに対するローカル管理者であるなど)。

## 使用例:

- (企業のネットワークに不定期に接続する可能性がある)ラップトップ ユーザーが自分のラップトップにプログラムをインストールできるようにします。
- フォルダの共有が許可されていないネットワーク内のインストール パッケージにアクセスできません。

## 2.1.2 ローカル インストール

すべてのコンピュータを含むセットアップ プログラムと、選択したコンポーネントのみを Acronis Web サイトからダウンロードする簡易セットアップ プログラムのどちらかを選択することができます。

インストールは、対話型モードまたは無人モードで実行できます。

### 準備

**ネットワーク ポート:** Acronis Backup & Recovery 11 では、ローカルのインストールおよびコンポーネント間の通信に TCP ポート **9876** を使用します。このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。

**暗号化ソフトウェア:** PGP Whole Disk Encryption などのディスクレベルの暗号化ソフトウェアを使用する予定がある場合は、必ずそのソフトウェアを Acronis Backup & Recovery 11 のインストール前にインストールしてください。

### アドバンス エディションでの対話型インストール

Acronis Backup & Recovery 11 をローカル コンピュータにインストールする手順は、次のとおりです。

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup & Recovery 11 セットアップ プログラムを起動します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. コンピュータで実行したい操作に応じて、1 つ以上のチェック ボックスを選択します。この選択に応じて、インストールのために、Acronis Backup & Recovery 11 の対応するコンポーネントが選択済みになります。

事前に選択されたコンポーネントの一覧を確認したり、エージェント for VMware vSphere ESX(i) などの追加のコンポーネントを選択したりするには、**[Acronis コンポーネントを手動で選択する...]** チェックボックスをオンにします。この場合は、追加のパラメータも指定することができます(手順 8 を参照してください)。

5. メッセージが表示されたら、Deduplication コンポーネントや Universal Restore コンポーネントをインストールするかどうかを選択します。これらのコンポーネントには追加のプロダクト キーが必要です。
6. プロダクト キーが必要なコンポーネント(エージェント for Windows など)をインストールする場合は、プロダクト キーの取得元を次から指定します。

- **プロダクト キーをライセンス サーバーから取得する**

コンポーネントはプロダクト キーをライセンス サーバーから取得します。ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。管理サーバーをこのコンピュータにインストールする場合は、統合されたライセンス サーバー(推奨)または別のコンピュータにインストールされたライセンス サーバーを指定することができます。

インストールする製品エディションを選択します。ライセンス サーバーに、複数のエディションのライセンスが保存されている場合は、セットアップ プログラムによって、コンピュータのオペレーティング システムに基づき最も低コストの適用可能なライセンスが提案されます。

- **キーを手動で入力する**

プロダクト キーを入力するかファイルからインポートする必要があります。

このオプションは、エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)を選択した場合は使用できません。

- **このコンピュータをオンライン ストレージのみにバックアップする**

プロダクト キーは使用されません。このコンピュータは Acronis Online Backup Storage にのみバックアップすることができます。

7. 製品のインストール先フォルダを指定します。このウィンドウで、リモート インストール (27ページ)用のファイルを置くフォルダを変更することもできます。

8. メッセージが表示されたら、選択したコンポーネントに応じて次の 1 つ以上のパラメータを指定します。

- 製品をすべてのユーザー用にインストールするか現在のユーザー用にのみインストールするか指定します。

- 管理サーバー Web ページ (36ページ)および Web ページのポート (40ページ)を有効にするかどうか指定します。

- Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネント サービスのログイン情報。デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービスごとに専用のユーザー アカウントが作成されます。詳細については、「Acronis サービスのログイン情報の指定 (21ページ)」を参照してください。

- Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーで使用する Microsoft SQL サーバーの名前。詳細については、「Microsoft SQL サーバーの指定 (22ページ)」を参照してください。

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows や Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードを管理サーバーに登録するかどうか。詳細については、「管理サーバーへのコンポーネントの登録 (23ページ)」を参照してください。

- コンピュータにリモートから接続できるユーザーの名前。詳細については、「リモートから接続できるユーザーの指定 (23ページ)」を参照してください。

- エージェント for ESX(i)(Windows)によってバックアップされる VMware vCenter Server または ESX(i) サーバーの名前または IP アドレスを指定します。そのサーバーにログオンするためのユーザー名とパスワードを指定します。サーバーを指定しない場合は、**[後でサーバーを指定する]** をクリックします。

エージェントをインストールした後にこの設定にアクセスするには、エージェントがインストールされているコンピュータにコンソールを接続し、トップメニューから **[オプション] > [コンピュータ オプション] > [エージェント for ESX(i)]** を選択します。

9. コンピュータを Acronis カスタム エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうかを選択します。

概要ウィンドウには、コンピュータにインストールされるコンポーネントの一覧およびそれらのコンポーネントのインストール設定が表示されます。

**注意:** インストール手順をキャンセルすると、最後のパッケージのみが削除されます。他のコンポーネントがある場合は、インストールされたままになります。

## Acronis サービスのログイン情報の指定

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)、Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバー、および Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードの各コンポーネントは、サービスとして実行されます。コンポーネントのインストール時に、コンポーネントのサービスを実行するアカウントを指定する必要があります。

サービスごとに、専用のユーザー アカウントを作成するか(ほとんどの場合にお勧めします)、ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーの既存のアカウント(たとえば、**¥LocalUser** または **DomainName¥DomainUser**)を指定することができます。

### 新しいアカウント

サービス専用のユーザー アカウントの作成を選択すると、次のアカウントが作成されます。

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows および Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)のサービスの場合: **Acronis Agent User**
- Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーのサービスの場合: **AMS User**
- Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードのサービスの場合: **ASN User**

新しく作成されたアカウントには、次の権限が付与されます。

- これらの 3 つのアカウントすべてに、サービスとしてログオンのユーザー権限が割り当てられます。
- Acronis Agent User ユーザー アカウントには、プロセスのメモリ クォータの増加、プロセス レベル トークンの置き換え、およびファームウェアの環境値の修正のユーザー権限が割り当てられます。
- Acronis Agent User および ASN User ユーザー アカウントは、**Backup Operators** および **Administrators** グループに含まれます。
- AMS User ユーザー アカウントは、**Acronis Centralized Admins** グループに含まれます。

## 既存のアカウント

対応するサービスに指定した既存のアカウントに、上記のユーザー権限がセットアップ プログラムによって割り当てられます。

エージェント サービスに既存のユーザー アカウントを指定する場合は、このアカウントが **Backup Operators** グループのメンバであることを確認してからインストールを続行してください。アドバンスド エディションの場合、アカウントを、**Administrators** グループのメンバにすることをお勧めします。メンバにしない場合、Software Shadow Copy Provider が、集中管理用バックアップ中にスナップショットを取得できない可能性があります。

ストレージ ノード サービスに既存のユーザー アカウントを指定する場合は、このアカウントが **Administrators** グループのメンバであることを確認してからインストールを続行してください。メンバでない場合、サービスが一部の Windows リソースにアクセスする権限が不足する可能性があります。

管理サーバー サービスに既存のユーザー アカウントを指定する場合は、このアカウントは **Acronis Centralized Admins** グループに自動的に追加されます。

Hyper-V クラスタ ノードなどのフェイルオーバー クラスタ ノードにエージェントをインストールする場合、エージェント サービスについては、ドメイン ユーザーの既存のアカウントを指定します。このアカウントは、各クラスタ ノードに対する管理権限が必要です。エージェントは、このアカウントを使用して、いかなるノードにあるクラスタ化されたリソースにでもアクセスできます。また、このエージェントに新しいアカウントを作成することもできます。その後、集中管理用バックアップ計画または復元タスクを作成するときに、必要な権限を持つドメイン アカウントに対するログイン情報を指定する必要があります。

## 高度な使用に関するヒント

- コンピュータが Active Directory ドメインの一部である場合は、ここで説明した既存のアカウントまたは新規に作成されたアカウントへの上記のユーザー権限の付与がドメインのセキュリティポリシーによって妨げられないようにしてください。
- インストール後は、コンポーネントのサービスに対して異なるユーザー アカウントを指定しないでください。そうしなければ、コンポーネントが動作を停止する可能性があります。

## Microsoft SQL サーバーの指定

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーのインストール時に、管理サーバーのデータベース用の Microsoft SQL サーバーを指定する必要があります。

- **運用 SQL サーバー**は、Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントを確実に同期します。これには、頻繁に変更される処理データのデータベースが保存されます。
- **レポート用 SQL サーバー**は処理のログと統計データを保存します。このサーバーに保存されるデータベースは、時間が経過するとかなり大きくなる場合があります。

それぞれの SQL サーバーに対して、次のいずれかを選択します。

- インストール パッケージに付属し、同じコンピュータにインストールされる Microsoft SQL Server 2005 Express。この場合、コンピュータ上には 1 つの SQL サーバー インスタンスが作成されます。
- 以前に任意のコンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server 2008(任意のエディション)。

- 以前に任意のコンピュータにインストールされている Microsoft SQL Server 2005(任意のエディション)。

## 推奨事項

運用 SQL サーバー用には、管理サーバーと同じコンピュータ上にあるサーバー(インストール パッケージに含まれる Microsoft SQL Server 2005 Express など)を選択することをお勧めします。

レポート SQL サーバー用には、運用 SQL サーバーと同じサーバーまたは別のサーバーを選択できます。また、同じコンピュータ上になくてもかまいません。

## 管理サーバーへのコンポーネントの登録

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)、または Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードをインストールする際には、これらのコンポーネントを Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーに登録するかどうかを指定する必要があります。

エージェントを管理サーバーに登録すると、管理サーバーの管理者はコンピュータを集中管理できるようになります。このようなコンピュータは、登録済みのコンピュータと呼ばれます。

ストレージ ノードを管理サーバーに登録すると、登録済みのコンピュータのデータをストレージ ノードの集中管理用格納域にバックアップしたり、集中管理用格納域から復元したりできるようになります。

**インストール時にエージェントやストレージ ノードを登録する手順(推奨)は、次のとおりです。**

1. **[今すぐ登録する]** をクリックします。
2. 管理サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。このコンピュータはオンラインである必要があります。たとえば、管理サーバーがインストール中のコンポーネントに含まれている場合は、ローカル コンピュータを指定できます。
3. 管理サーバーのコンピュータの Acronis Centralized Admins グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。管理サーバーをローカル コンピュータにインストールしている場合は、Administrators グループのメンバであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。

**登録をスキップする手順は、次のとおりです。**

- **[後でコンピュータを登録する]**(または **[後でコンポーネントを登録する]**)をクリックします。

インストール後は、管理サーバーのインターフェイスから管理サーバー上のコンポーネントの登録や削除を行うことができます。

## リモートから接続できるユーザーの指定

エージェントまたは管理サーバー(または両方)をインストールする場合、Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールを使用して、リモートによるコンピュータの管理を許可したいユーザーの一覧を指定する必要があります。

デフォルトでは、そのコンピュータの Administrators グループのすべてのメンバが一覧に含まれます。コンピュータが Active Directory ドメインに含まれている場合は、ドメイン管理者も含まれることに注意してください。

セットアップ プログラムによって **Acronis Remote Users** グループが作成され、一覧に含まれるユーザーがグループに追加されます。グループのメンバを追加または削除することにより、コンピュータにリモート接続できるユーザーが追加または削除されます。

## Web ベースのインストール

Web ベースのインストールの手順は、対話型インストール (19ページ) の手順とまったく同じです。Web ベースのインストールを実行できるのは アドバンスド エディションのみです。

Web ベースのインストール中にアクロニスの Web サイトからダウンロードされるのは、現在インストール中のコンポーネントのみです。後にこのコンピュータからリモートで (27ページ) コンポーネントをインストールすることを計画している場合は、注意してください。リモートでインストールするコンポーネントがすべて確実にコンピュータ上に存在するためには、代わりにローカル インストールを使用することを検討してください。

多数のコンピュータで Web ベースのインストールを実行する場合、インターネットから同じコンポーネントを何度もダウンロードしないようにします。これを行うための手順は、次のとおりです。

1. ローカル ネットワークで、共有フォルダを作成し、Acronis Backup & Recovery 11 をインストールするすべてのコンピュータから使用できるようにします。
2. これらのコンピュータのうち、最初のコンピュータで、次の手順を実行します。
  - a. Web ベースのインストールのセットアップ プログラムを実行します。
  - b. 対応するウィンドウで、**[ダウンロードしたインストール ファイルを保存します]** チェックボックスをオンにしてから、作成した共有フォルダを指定します。
  - c. インストールを続けます。  
必要なインストール ファイルが共有フォルダにダウンロードされます。
3. 残りのコンピュータで手順 a ~ c を実行します。セットアップ プログラムによって、インストール ファイルが再度ダウンロードされずに共有フォルダにすでに存在しているファイルが再使用されます。他の必要なインストール ファイルはすべて、フォルダにダウンロードされます。

## 無人インストール

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows などの Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントは、対話型モードだけでなく、無人モードでインストールすることができます。

トランスフォーム(.mst ファイル)と呼ばれるファイルを必要とするコンポーネントもあります。コンポーネントで使用されるトランスフォームを作成するには、コンフィギュレーション スクリプト `mst_gen.vbs` が必要です。このスクリプトは、Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールがインストールされているフォルダにあります。デフォルトでは、このフォルダ名は `C:\Program Files\Acronis\BackupAndRecoveryConsole` です。管理コンソールが別のコンピュータにインストールされている場合には、そのコンピュータからスクリプトをコピーできます。また、このセクション後半にある「トランスフォームの作成例」も参照してください。

次のコンポーネントと機能は、無人モードでインストール、再インストール、またはアップデートできません。

### エージェント コア(どのようなエージェントでも必須)

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント コア: **AcronisAgentCore.msi**(トランスフォームが必要)

### エージェント

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows: **AcronisAgentWindows.msi**(トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows): **AcronisAgentESX.msi**(トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Hyper-V: **AcronisAgentHyperV.msi**(トランスフォームが必要)

### エージェントの機能

- Acronis Backup & Recovery 11 Deduplication: **AcronisDeduplication.msi**(トランスフォームが必要)
- Acronis Backup & Recovery 11 Universal Restore: **AcronisUniversalRestore.msi**(トランスフォームが必要)

### ブータブル メディア ビルダ

- Acronis Backup & Recovery 11 ブータブル メディア ビルダ: **AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi**(トランスフォームが必要です)

### 管理コンソール

- Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール(アドバンスド エディション用): **AcronisManagementConsole.msi**
- Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソール(スタンドアロン エディション用): **AcronisStandaloneManagementConsole.msi**

### エージェントのインストール順序

このエージェントをインストールする場合、まず、エージェント コア コンポーネント(まだインストールされていない場合)、次にエージェント自体、最後にエージェント機能をインストールします。

### インストール手順

コンポーネントを無人モードでインストール、再インストール、アップデートする手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. [インストール ファイルの取り出し](標準のセットアップ プログラムを使用する場合)または [インストール ファイルの保存](Web ベースのセットアップ プログラムを使用する場合)をクリックします。
3. コンポーネントのインストール パッケージを取り出します。
4. トランスフォームを必要とするコンポーネントをインストールする場合、コンフィギュレーション スクリプトを実行して、トランスフォームを作成します。それ以外の場合は、この手順をスキップします。

たとえば、次のコマンドは、プロダクト キー ABCDE-54321 を使用して エージェント for Windows をインストールするトランスフォームを作成します。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /serial ABCDE-54321
```

このセクションの後述の例もご参照ください。コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細は、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ (34ページ)」をご参照ください。

5. 次のいずれかの方法を使用して、コンポーネントのインストール、再インストール、またはアップデートを行います。

- コンポーネントをインストールする場合、次のように Windows インストーラ(`msiexec` プログラム)を実行します。

トランスフォームを必要とするコンポーネント(この例では、エージェント for Windows)をインストールする場合:

```
msiexec /i c:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=AcronisAgentWindows.mst /qb
```

それ以外(この例では、管理コンソール)の場合:

```
msiexec /i c:\AcronisManagementConsole.msi /qb
```

- コンポーネントを再インストールまたはアップデートする場合は、次のように Windows インストーラを実行します。

トランスフォームを必要とするコンポーネント(この例では、エージェント for Windows)を再インストールまたはアップデートする場合:

```
msiexec /i C:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=C:\AcronisAgentWindows.mst ADDLOCAL=ALL /qb
```

それ以外(この例では、管理コンソール)の場合:

```
msiexec /i C:\AcronisManagementConsole.msi ADDLOCAL=ALL /qb /!v C:\log.log
```

Active Directory ドメインでは、グループ ポリシーを使用して、サポートされているコンポーネントの無人インストール、再インストール、またはアップデートを行う方法があります。詳細については、「グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール (30ページ)」を参照してください。

## トランスフォームの作成例

**エージェント コア用トランスフォーム。**次のコマンドでは、エージェント コア コンポーネントのインストール パッケージ用トランスフォームが作成されます。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentCore.msi /account mydomain\agentuser MyPassWd /ams_address managementsrv /ams_user adminname AdminPassWd
```

このトランスフォームを無人インストールすると、次のようになります。

- エージェントのサービスは、**mydomain** ドメインの **agentuser** ドメイン ユーザー アカウント (パスワードは **MyPassWd**)で実行されます。
- エージェントが、**managementsrv** コンピュータにインストールされている Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーに登録されます。**adminname** と **AdminPassWd** には、管理サーバーの管理者のユーザー名とパスワードをそれぞれ指定します。

**エージェント for Windows 用トランスフォーム。**次のコマンドでは、エージェント for Windows のインストール パッケージ用トランスフォームが作成されます。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /license_server licensesrv /product AS
```

このトランスフォームを無人インストールすると、次のようになります。

- エージェントは、**licensesrv** コンピュータにインストールされているライセンス サーバーから Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server エディションのライセンスを取得して使用します。

同様に、Universal Restore などのエージェント機能用トランスフォームを作成できます。

## アップデート

Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントを 1 つ以上アップデートする手順は、次のとおりです。

1. アップデートされたバージョンの Acronis Backup & Recovery 11 のセットアップ プログラムを実行します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. **[アップデート]** をクリックします。
4. メッセージが表示されたら、プロダクト キーを手動で入力するかライセンス サーバーを指定することでプロダクト キーを指定します。
5. 画面の指示に従います。

### 無人モードでのコンポーネントのアップデート

無人モードでコンポーネントをアップデートする詳細については、「無人インストール (24ページ)」を参照してください。

## 2.1.3 リモート インストール

エージェント for Windows などの、Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントは、Windows が稼働している 1 つ以上のコンピュータにリモート インストールすることができます。

リモート インストールを実行するには、ターゲット コンピュータでの管理者権限が必要です。

リモート インストールは、次のいずれかの方法で実行できます。

- 管理コンソールから実行します。
- コンピュータを 1 つ以上管理サーバーに追加します。

### 準備

1. 任意の Windows XP バージョンを実行しているリモート コンピュータにインストールする場合は、そのコンピュータで **[コントロール パネル] > [フォルダ オプション] > [表示]** を選択して表示される **[簡易ファイルの共有を使用する(推奨)]** オプションが **[無効]** になっている必要があります。
2. Windows Vista 以降が稼働しているリモート コンピュータにインストールする場合は、ユーザー アカウント制御(UAC)を **[無効]** にしてください。このオプションにアクセスするには、**[コントロール パネル] > [ユーザー アカウント] > [ユーザー アカウント制御設定の変更]** に移動します。
3. **[ファイルとプリンタの共有]** が、リモート コンピュータで **[無効]** になっている必要があります。このオプションにアクセスするには
  - Windows XP Service Pack 2、または Windows 2003 Server が実行されているコンピュータの場合: **[コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] > [例外] > [ファイルとプリンタの共有]** を選択します。
  - Windows Vista、Windows Server 2008、または Windows 7 が実行されているコンピュータの場合: **[コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] > [ネットワークと共有センター] > [共有の詳細設定の変更]** に移動します。
4. Acronis Backup & Recovery 11 のリモート インストールには TCP ポート 445 および 25001 を使用します。この 2 つのポートを、リモート コンピュータ上のファイアウォール設定の例外に必ず追加してください。**[ファイルとプリンタの共有]** を有効にすると、TCP ポート 445 は、Windows ファイアウォールによって自動的に例外に追加されます。  
ポートを例外に追加するには

- Windows XP および Windows Vista の場合: [コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] > [例外] > [ポートの追加] に移動します。
- Windows 7 の場合: [コントロール パネル] > [Windows ファイアウォール] > [詳細設定] > [受信の規則] > [新しい規則] > [ポート] に移動します。

ヒント: リモート コンピュータが Active Directory ドメインのメンバであり、Windows ファイアウォール以外のファイアウォールを使用していない場合は、グループ ポリシーを使用して TCP ポート 25001 を例外に追加することができます。ドメイン コントローラで、グループ ポリシー オブジェクトを作成してから、[管理用テンプレート] > [ネットワーク] > [ネットワーク接続] > [Windows ファイアウォール] > [ドメイン プロファイル] > [Windows ファイアウォール: ポートの例外を定義する](または、[着信ポートの例外を定義する])に進み、ポートの例外「25001:tcp:\*.enabled:Acronis remote install」を追加します。

リモート インストールが完了したら、両方のポートを例外から除外することができます。

## インストール手順

Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントをリモートでインストールする手順は、次のとおりです。

1. 次のいずれかの方法でリモート インストールを開始します。
  - 管理コンソールから: 管理コンソールを起動します。[ツール] メニューで [Acronis コンポーネントのインストール] をクリックします。
  - 1 台以上のコンピュータを管理サーバーに追加する場合: 管理コンソールを管理サーバーに接続します。[アクション] メニューで [コンピュータの追加] または [複数のコンピュータの追加] をクリックします。
2. コンポーネントをインストールするコンピュータを選択します (29ページ)。1 台のコンピュータを管理サーバーに追加する場合は、そのコンピュータの名前または IP アドレス、管理者のユーザー名およびコンピュータのパスワードを指定するだけです。
3. インストールするコンポーネントを指定します (29ページ)。主要コンポーネントをインストールしていないか、インストール コンポーネントとして選択していない場合は、Deduplication などのコンポーネントの機能をインストールできません。
4. メッセージが表示されたら、次の項目を指定します。
  - エージェントなどのライセンスが必要なコンポーネントのプロダクト キー (29ページ)。
  - エージェントのサービスのユーザー アカウント (21ページ)などのエージェントのインストール オプション。ほとんどの場合、デフォルトの設定のままにします。
  - エージェントのインストール後にコンピュータを管理サーバーに登録するかどうか。
  - コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうか。

概要ウィンドウには、コンポーネントがインストールされるコンピュータの一覧が表示されます。

インストールが開始されると、処理の進行状況と、コンポーネントがインストールされているコンピュータの名前が表示されます。

## アップデート

リモート コンピュータ上の 1 つ以上のコンポーネントをアップデートするには、インストール手順を繰り返します。

## 製品版へのアップグレード

コンポーネントを 1 つ以上試用版から製品版にアップグレードするには、ライセンス サーバーにプロダクト キーをインポートすることなどにより、製品版プロダクト キーを指定してから、インストール手順を繰り返します。試用版からオンライン バックアップ専用のバージョンにアップグレードするには、プロダクト キーを指定せずにインストール手順を繰り返します。

## コンピュータの一覧の指定

複数のコンピュータを管理サーバーに追加する際、またはリモート インストールを実行する際に、コンピュータの一覧を指定します。次の方法があります。

- コンピュータ名または IP アドレスを入力する: **[IP/名前を指定]** をクリックします。コンピュータごとに管理者のユーザー名とパスワードを指定します。
- ネットワークを参照する: **[ネットワークから]** をクリックします。ネットワークを参照すると、個々のコンピュータ、ワークグループ全体、またはドメイン全体を選択できます。コンピュータごとに管理者のユーザー名とパスワードを指定します。ネットワーク上に共通した管理者アカウントがある場合は、1 台のコンピュータでアカウントのログイン情報を入力し、選択したすべてのコンピュータにその情報を適用するためのオプションを設定します。ドメイン管理者のログイン情報、ワークグループの共通したログイン情報は、この方法で適用できます。
- Active Directory ドメインを参照する: **[Active Directory から]** をクリックします。コンピュータのドメイン管理者のログイン情報のような、ユニバーサル管理者アカウントを指定します。
- .txt ファイルまたは .csv ファイルからコンピュータの一覧をインポートする: **[ファイルから]** をクリックします。コンピュータのユニバーサル管理者アカウントを指定します。

---

**注意:** コンピュータが Active Directory ドメインのドメイン コントローラである場合は、そのドメインの名前をユーザー名と共に指定する必要があります。例: **MyDomain¥Administrator**。

---

管理サーバーに追加するコンピュータを指定すると、Acronis Backup & Recovery 11 によって、エージェントがまだインストールされていないコンピュータが検出されます。この検出が完了するまで待機することをお勧めします。待機しない場合、エージェントがすでにインストールされているコンピュータのみが管理サーバーに追加されます。この検出をキャンセルするには、**[状態の検出をキャンセル]** をクリックします。

## リモート インストールするコンポーネントの指定

コンポーネントは、インストール パッケージからインストールされます。デフォルトでは、これらのパッケージはフォルダ `%CommonProgramFiles%\Acronis¥RemoteInstaller` から取得されます。

コンポーネントのインストール パッケージに異なる場所を選択するには、**[コンポーネント ソースの変更]** をクリックします。選択肢 **[登録済みコンポーネント]** は、デフォルト フォルダに対応します。

コンソールが管理サーバーに接続されている場合、パッケージは、管理サーバーが存在するコンピュータから取得されます。コンソールが管理サーバーに接続されていない場合、パッケージは、コンソールが存在するコンピュータから取得されます。

## プロダクト キーの指定

ライセンスが必要なコンポーネントをインストールする際、次のいずれかの方法でプロダクト キーを指定します。

- **[プロダクト キーを手動で入力する]** をクリックして、**[次へ]** をクリックします。プロダクト キーを入力するか、テキスト ファイルからプロダクト キーをインポートできます。
- **[次のライセンス サーバーにあるライセンスを使用する]** をクリックし、ライセンス サーバーまたは管理サーバーの名前または IP アドレスを指定して、**[次へ]** をクリックします。
- **[バックアップ先はオンライン ストレージのみ]** をクリックして、**[次へ]** をクリックします。プロダクト キーは使用されません。プロダクト キーを指定せずにインストールされたエージェントが実行できるバックアップは、Acronis Online Backup Storage に対してのみです。

現在使用可能なライセンスが各コンポーネントに対して自動的に割り当てられます。

**[ライセンス]** ウィンドウに、必須のライセンス数およびコンポーネントに対してさらに割り当てる必要があるライセンス数が表示されます。1 つ以上のライセンスを追加するには、**[ライセンスの追加]** をクリックします。試用版のプロダクト キー、製品版のプロダクト キー、またはその組み合わせを指定できます。

ライセンスの割り当てを表示または変更するには、**[ライセンス マッピングの表示]** をクリックします。**[ライセンスのマッピング]** ウィンドウで、次のように、どのコンポーネントがどのライセンスを使用するかを設定できます。

1. **[コンピュータ]** ビューでコンピュータをクリックします。
2. **[コンポーネント]** の下で、コンピュータ上のどのコンポーネントでライセンスが必要なのかを確認します。
3. **[使用中のライセンス]** の下で、対応するチェック ボックスをオンまたはオフにして、ライセンスが必要なコンポーネントに対してライセンスを割り当てるか、再割り当てします。

## 2.1.4 グループ ポリシーを使用したエージェントのインストール

グループ ポリシーを使用して、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows を Active Directory ドメインのメンバに集中的にインストール(または配置)できます。グループ ポリシーは、Microsoft Windows 2000 Server およびそれ以降の Windows サーバーのオペレーティング システムで使用できるメカニズムです。

このセクションでは、グループ ポリシー オブジェクトを設定して、ドメイン全体またはその組織単位 (OU)のコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows を配置する方法について説明します。

コンピュータがドメインにログオンするたびに、適用されるグループ ポリシー オブジェクトによって、そのコンピュータにエージェントが確実にインストールされます。

### 前提条件

エージェントの配置に進む前に、次の項目を確認します。

- Active Directory ドメインと、Microsoft Windows Server 2003 以降を実行しているドメイン コントローラがある。
- ドメインの Domain Admins グループのメンバである。
- プロダクト キーを把握しているか、Acronis ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを把握している。
- Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールがインストールされた Windows を実行するコンピュータがある。

## エージェントの配置の準備

### 手順 1: インストール パッケージの取り出し

インストール パッケージ(.msi ファイルとして提供されます)を保存する共有フォルダを作成し、そこにパッケージを取り出す必要があります。

1. ドメイン コントローラ(またはドメイン内の任意のコンピュータ)にフォルダ(D:\Acronis など)を作成します。
2. Acronis Backup & Recovery 11 セットアップ プログラムを開始します。
3. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。
4. **[エージェント for Windows(AcronisAgentWindows.msi)]** および **[エージェント コア(AcronisAgentCore.msi)]** チェックボックスをオンにします。
5. Acronis Backup & Recovery 11 Deduplication をインストールする場合は、**[重複除外(AcronisDeduplication.msi)]** チェックボックスをオンにします。
6. Acronis Backup & Recovery 11 Universal Restore をインストールする場合は、**[Universal Restore(AcronisUniversalRestore.msi)]** チェックボックスをオンにします。

**注意:** Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition、および Advanced Server SBS Edition では、Universal Restore 機能は既に有効になっているので、個別にインストールする必要はありません。

7. **[取り出し先]** に、作成したフォルダの名前を入力するか、**[参照]** をクリックしてフォルダを選択します。
8. **[取り出し]** をクリックします。
9. インストール パッケージを置いたフォルダを共有します。共有フォルダにドメイン ユーザーがアクセスできるようにします。たとえば、デフォルトの共有設定を **[Everyone]** のままにします。

### 手順 2: インストール パッケージの設定

**重要:** エージェントを再インストールまたはアップデートする場合は、この手順をスキップしてください。

コンフィギュレーション スクリプトを実行して、エージェント コア、およびエージェント for Windows コンポーネントのインストール パッケージを設定する必要があります。このスクリプトは、管理コンソールと共にインストールされます。デフォルトでは、このスクリプトは %ProgramFiles%\Acronis\BackupAndRecoveryConsole フォルダにあります。管理コンソールが別のコンピュータにインストールされている場合には、そのコンピュータからコンフィギュレーション スクリプトをコピーできます。

このコンフィギュレーション スクリプトにより、インストール パッケージのトランスフォーム(変更、変更ファイル、または .mst ファイルとも呼ばれます)を作成します。

1. **[スタート]** メニューで、**[ファイル名を指定して実行]** をクリックし、「cmd」と入力します。
2. **[OK]** をクリックします。
3. 次のコマンドを実行して、現在のフォルダをコンフィギュレーション スクリプト **mst\_gen.vbs** が存在するフォルダに変更します。

```
C:  
cd "C:\Program Files\Acronis\BackupAndRecoveryConsole"
```

4. エージェント コア、およびエージェント for Windows コンポーネント用のコンフィギュレーション スクリプトを実行します。たとえば、次のようにします。

```
mst_gen.vbs /msi_path D:\Acronis\AcronisAgentCore.msi
```

```
mst_gen.vbs /msi_path D:\Acronis\AcronisAgentWindows.msi /license_server licensesrv /product AS
```

**注意:** インストール パッケージがコンフィギュレーション スクリプトと同じフォルダにある場合でも、インストール パッケージへの完全なパスを含める必要があります。

コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細については、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ (34ページ)」を参照してください。また、無人インストール (24ページ)の「トランスフォームの作成例」も参照してください。

インストール パッケージの配置準備が整いました。ここで、グループ ポリシー オブジェクトを作成する必要があります。「グループ ポリシー オブジェクトの設定 (32ページ)」を参照してください。

## グループ ポリシー オブジェクトの設定

ドメイン全体またはドメインの組織単位(OU)にエージェント配置用のグループ ポリシー オブジェクト(GPO)を設定する手順は、次のとおりです。エージェントは、ドメインまたは組織単位(OU)のメンバーである各コンピュータで Windows が起動すると直ちにそのコンピュータインストールされます。

### 前提条件

- ドメイン管理者としてドメイン コントローラにログオンする。ドメインに複数のドメイン コントローラがあるときは、ドメイン管理者としていずれかのドメインにログオンします。
- ある組織単位(OU)へのエージェントの配置を計画している場合は、その組織単位(OU)がドメイン内に存在しているようにする。
- 「エージェントの配置の準備」で説明した手順を完了してください。

### 手順 1: グループ ポリシー オブジェクトの作成

1. [スタート] メニューで、[管理ツール] をポイントしてから、[Active Directory ユーザーとコンピュータ](Windows Server 2003)または [グループ ポリシーの管理](Windows Server 2008) をクリックします。
2. Windows Server 2003 の場合:
  - ドメイン名または組織単位(OU)名を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。ダイアログボックスで、[グループ ポリシー] タブをクリックし、[新規] をクリックします。Windows Server 2008 の場合:
  - ドメイン名または組織単位(OU)名を右クリックし、[このドメインに GPO を作成し、このコンテナにリンクする] をクリックします。
3. 新しいグループ ポリシー オブジェクトに **Acronis エージェント**という名前を付けます。
4. 同様に別のグループ ポリシー オブジェクトを **Acronis コア**という名前で作成します。
5. 一覧内で **Acronis エージェント** オブジェクトが **Acronis コア** オブジェクトより上位にあることを確認します。

### 手順 2: エージェントのグループ ポリシー オブジェクトの設定

1. **Acronis エージェント** グループ ポリシー オブジェクトを編集するために、次の手順に従って開きます。
  - Windows Server 2003 では、グループ ポリシー オブジェクトをクリックし、[編集] をクリックします。
  - Windows Server 2008 では、[グループ ポリシー オブジェクト] でグループ ポリシー オブジェクトを右クリックし、[編集] をクリックします。

2. [グループ ポリシー オブジェクト エディタ] のスナップインで、[コンピュータの構成]、[ソフトウェアの設定] の順に展開します。
3. [ソフトウェア インストール] を右クリックし、[新規作成] をポイントし、[パッケージ] をクリックします。
4. 以前に作成した共有フォルダにあるエージェントのインストール パッケージを選択し、[開く] をクリックします。
5. [ソフトウェアの展開] ダイアログ ボックスで、[詳細設定] をクリックし、[OK] をクリックします。
6. エージェントを再インストールまたはアップデートする場合は、この手順をスキップしてください。エージェントをインストールする場合は、次の手順を実行します。
  - [変更] タブで [追加] をクリックし、以前に作成したトランスフォームを選択します。トランスフォーム ファイルは、**AcronisAgentWindows.mst** という名前で、エージェントのインストール パッケージと同じフォルダにあります。
7. [OK] をクリックして、[ソフトウェアの展開] ダイアログ ボックスを閉じます。
8. Acronis Backup & Recovery 11 Deduplication や Acronis Backup & Recovery 11 Universal Restore をインストールする場合は、適切なインストール パッケージに対して次の操作を実行します。
  - a. [ソフトウェア インストール] を右クリックし、[新規作成] をポイントし、[パッケージ] をクリックします。
  - b. 共有フォルダにあるインストール パッケージを選択し、[開く] をクリックします。
  - c. [ソフトウェアの展開] ダイアログ ボックスで、[割り当て] をクリックし、[OK] をクリックします。

### 手順 3: エージェント コア コンポーネントのグループ ポリシー オブジェクトの設定

1. **Acronis** コア グループ ポリシー オブジェクトを編集するために、次の手順に従って開きます。
  - Windows Server 2003 では、グループ ポリシー オブジェクトをクリックし、[編集] をクリックします。
  - Windows Server 2008 では、[グループ ポリシー オブジェクト] でグループ ポリシー オブジェクトを右クリックし、[編集] をクリックします。
2. [グループ ポリシー オブジェクト エディタ] のスナップインで、[コンピュータの構成]、[ソフトウェアの設定] の順に展開します。
3. [ソフトウェア インストール] を右クリックし、[新規作成] をポイントし、[パッケージ] をクリックします。
4. 以前に作成した共有フォルダにある **AcronisAgentCore.msi** インストール パッケージを選択し、[開く] をクリックします。
5. [ソフトウェアの展開] ダイアログ ボックスで、[詳細設定] をクリックし、[OK] をクリックします。
6. エージェントを再インストールまたはアップデートする場合は、この手順をスキップしてください。エージェントをインストールする場合は、次の手順を実行します。
  - [変更] タブで [追加] をクリックし、以前に作成したトランスフォームを選択します。トランスフォーム ファイルは、**AcronisAgentCore.mst** という名前で、コンポーネントのインストール パッケージと同じフォルダにあります。
7. [OK] をクリックして、[ソフトウェアの展開] ダイアログ ボックスを閉じます。

## 2.1.5 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ

コンフィギュレーション スクリプト `mst_gen.vbs` は、Acronis コンポーネント(Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows など)の `.mst` インストール パッケージ ファイル(トランスフォーム、変更、または変更ファイルとも呼ばれます)を作成します。

インストール パッケージとともにトランスフォームを使用すると、インストール パッケージを手動で実行するか、グループ ポリシーを使用して展開することで、コンポーネントを無人モードでインストールできます。

コンフィギュレーション スクリプトの完全な構文を次に示します。

```
mst_gen.vbs
/msi_path <フル パス>
[/target_dir <インストール フォルダ>]
[/account <ユーザー名> <パスワード>]
[/remote_users <ユーザー1> <ユーザー2> ... <ユーザーN>]
[/ams_address <管理サーバー> /ams_user <管理者のユーザー名> <パスワード>]
[/cep_enabled]
{/serial <プロダクト キー> [/old_serial <ABR10 プロダクト キー>] | /license_server <ライセンス サーバー> /product <エディションのコード> | /online_backup
| /advanced_online_backup}
[/current_user]
```

このスクリプトのパラメータについて説明します。

### あらゆるコンポーネントに適用されるパラメータ

`/msi_path <フル パス>`

コンポーネントのインストール パッケージのフル パスを指定します。

`D:¥folder¥AcronisAgentWindows.msi` などのローカル パス、または `¥¥server¥folder¥AcronisAgentWindows.msi` などの汎用名前付け規則(UNC)のパスを入力します。

`/target_dir <インストール フォルダ>`

コンポーネントのインストール先フォルダを指定します。

このパラメータを指定しなかった場合、コンポーネントはデフォルト フォルダ `%ProgramFiles%¥Acronis(Windows の 32 ビット版)`、または `%ProgramFiles(x86)%¥Acronis(Windows の 64 ビット版)` にインストールされます。

### エージェント コア コンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ `AcronisAgentCore.msi` にのみ適用されます。

`/account <ユーザー名> <パスワード>`

コンピュータで Acronis Managed Machine Service を実行するユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。このコンピュータ上のエージェントはすべて、このサービスとして実行されます。このユーザー アカウントには適切な権限が必要です(「Acronis サービスのログイン情報の指定 (21 ページ)」を参照してください)。ドメイン名とアカウント名は `mydomain¥User` のように円記号で区切ります。

このパラメータを指定しないと、エージェントはデフォルトのアカウント(**Acronis Agent User**)で実行されます。

`/remote_users <ユーザー1> <ユーザー2> ... <ユーザーN>`

**Acronis Remote Users** グループに追加するユーザー名を指定します。このグループのメンバーは、リモートからコンピュータに接続することができます。

このパラメータを指定すると、指定したユーザーのみがグループに追加されます。ユーザー名を複数指定する場合は、スペースで区切って指定します。

このパラメータを指定しないと、コンピュータ上の Administrators グループのすべてのメンバーがグループに追加されます。

`/ams_address <管理サーバー> /ams_user <管理者のユーザー名> <パスワード>`

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーの名前または IP アドレスを指定します。このパラメータを指定すると、インストールの完了後、コンピュータが自動的に管理サーバーに登録されます。

`/ams_user <管理者のユーザー名> <パスワード>`

管理サーバーの **Acronis Centralized Admins** グループのメンバーであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。このパラメータは `/ams_address` パラメータとともに使用します。

`/cep_enabled`

コンピュータをカスタム エクスペリエンス プログラムに参加させるかどうかを指定します。

このパラメータを指定すると、ハードウェア構成、使用頻度の最も高い機能と最も低い機能、および問題に関する情報が自動的にコンピュータから収集されて、定期的にアクロニスに送信されます。参加条件については、アクロニスの Web サイトを参照してください。

このパラメータを指定しないと、情報は送信されません。

## ライセンスを必要とするコンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentWindows.msi、AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi、AcronisAgentESX.msi、AcronisAgentHyperV.msi、AcronisUniversalRestore.msi(`/online_backup` および `/advanced_online_backup` パラメータを除く)、および AcronisDeduplication.msi(`/online_backup` および `/advanced_online_backup` パラメータを除く)にのみ適用されます。

`/serial <プロダクト キー>`

コンポーネントのインストール時に使用するプロダクト キーを指定します。プロダクト キーは、ダッシュで区切られた一連の英数字です。プロダクト キーはダッシュも含めて正確に入力してください。

`/old_serial <ABR10 license key>`

Acronis Backup & Recovery 10(ABR10)からアップグレードする際に、その製品のプロダクト キーを指定します。このパラメータは `/serial` パラメータとともに使用します。

プロダクト キーがライセンス サーバーに保存されている場合は、代わりに `/license_server` パラメータを使用します。

`/license_server <ライセンス サーバー>`

ライセンス サーバーがインストールされているコンピュータの名前または IP アドレスを指定します。

このパラメータを使用する場合は、`/product` パラメータも指定します。

### /product <エディションのコード>

Acronis Backup & Recovery 11 のエディションのコードを指定します。  
コードは次のとおりです。

Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server: **AS**

Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server SBS Edition: **SBS**

Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Workstation: **AW**

Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition: **VE**

### /online\_backup

コンポーネントを、ローカル管理機能を備えたオンライン バックアップ専用インストールする場合に指定します。プロダクト キーもライセンス サーバーも不要です。

### /advanced\_online\_backup

コンポーネントを、ローカル管理、集中管理、およびリモート管理機能を備えたオンライン バックアップ専用インストールの場合に指定します。プロダクト キーもライセンス サーバーも不要です。

## 管理コンソールにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisManagementConsole.msi および AcronisStandaloneManagementConsole.msi にのみ適用されます。

### /current\_user

コンポーネントを、コンピュータ上のすべてのユーザー用にインストールするのではなく、現在のユーザー用のみにインストールする場合に指定します。

グループ ポリシーを使用してコンポーネントをインストールする際は、インストールの「現在のユーザー」が通常はシステム アカウントであるため、このパラメータは使用しないでください。

## 2.1.6 管理サーバーの Web ページからのインストール

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーには、専用の Web サーバーおよび Web ページがあります。管理者または組織内のユーザーは、サポートされている Web ブラウザ (37ページ) がインストールされた任意のコンピュータからこの Web ページにアクセスすれば、インストール設定を指定せずに Acronis Backup & Recovery 11 をインストールすることができます。エージェントをインストールする際、セットアップ プログラムによってコンピュータが管理サーバーに登録されます。

Web ページを使用することで、フォルダの共有が許可されていないネットワーク内のインストールパッケージにアクセスできます。

グループ ポリシーを使用したインストール (30ページ) とは異なり、Web ページからのインストールはユーザーが開始することができます。インストールは、ドメインのメンバーではないコンピュータ上で実行可能であり、Linux を実行しているコンピュータ\* でも可能です。

ファイアウォールによってブロックされることが多いリモート インストール (27ページ) とは異なり、Web ページからのインストールでは、標準以外のネットワーク ポートを開放する必要はありません。インストールには、HTTP 用のポート(デフォルトではポート 8080)が使用されます。

Web ページが機能するには、リモート インストールのコンポーネントがインストールされている必要があります。管理サーバーをインストールする際、概要ウィンドウでこのコンポーネントがインスト

ールされるコンポーネントに含まれていることを確認してください。インストール パッケージを保存するフォルダを指定することができます。

\*Web ページに Linux 用のコンポーネントを追加するには、このコンポーネントをアクロニスの Web サイトからダウンロードします。その後で、対応する **installed-products** 要素を「インストール設定の変更 (38ページ)」で説明されている設定ファイルに追加します。これにより、Web ページからコンポーネントのインストールファイルにアクセスできるようになります。Linux では設定ファイルの他の設定は無視されます。インストールするごとに、インストールの設定を手動で設定する必要があります。

## サポートされる Web ブラウザ

Web ページには、次の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer 6 以降
- Mozilla Firefox 3.6 以降
- Safari 5 以降
- Google Chrome 6 以降
- Opera 10.6 以降

---

**重要:** ブラウザで JavaScript が有効になっていることを確認してください。

---

## 管理サーバー Web ページの使用

管理サーバーの Web ページを開くには、ブラウザのアドレス バーに管理サーバーのコンピュータの名前または IP アドレスとポート番号を入力します。たとえば、**http://ams:8080** または **http://192.168.0.1:8080** と入力します。

Web ページにデフォルト以外のポートを介してアクセスしなければならない場合、8080 以外のポートを指定します。

## あらかじめ選択されたコンポーネントでのインストール

Web ページを利用して組織内のユーザーが自分のコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 を簡単にインストールするには、次の方法に従います。

1. Web ページにアクセスします。ユーザーがインストール可能な Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントが一覧表示されます。
2. ユーザーがインストールする必要があるコンポーネントを 1 つ以上選択します。
3. **[ダウンロード]** リンクをコピーして、ユーザーに送信します。
4. ユーザーはそのリンクに従って、セットアップ プログラムを開始します。
5. セットアップ プログラムが実行されます。必須フィールド(ライセンス サーバーの名前など)はすべて、すでに入力されています。ユーザーは、設定を変更せずにインストール ウィザードを完了します。

## 現場で選択したコンポーネントでのインストール

経験豊富なユーザーが Web ページを利用して自分のコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 を簡単にインストールするには、次の方法に従います。

1. ユーザーが Web ページにアクセスします。ユーザーがインストール可能な Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントが一覧表示されます。
2. ユーザーが、インストールするコンポーネントを 1 つ以上選択します。
3. ユーザーが、**[ダウンロード]** ボタンをクリックします。

4. ユーザーが、セットアップ プログラムを開始します。
5. セットアップ プログラムが実行されます。必須フィールド(ライセンス サーバーの名前など)はすべて、すでに入力されています。ユーザーは、必要に応じて設定を変更してインストール ウィザードを完了します。

## インストールの動作

セットアップ プログラム自体は、小さいサイズです。管理サーバーのコンピュータから、選択されたコンポーネントのインストール パッケージがダウンロードされます。

Windows にエージェントをインストールする場合は、セットアップ プログラムによって、エージェントのサービス専用のユーザー アカウントが作成されます。

## デフォルトのインストール設定

セットアップ プログラムは、構成ファイルからインストール設定を取得します。このファイルは、管理サーバーのコンピュータに保存されています。

構成ファイルのデフォルト設定は次のとおりです。

- 管理サーバーに同梱されているライセンス サーバーを使用します。インストールされている各エージェントおよび各機能(Deduplication など)によって、そのライセンス サーバーから固有のライセンスが取得されます。
- 次のフォルダにコンポーネントをインストールします。
  - 32 ビット版 Windows: **%ProgramFiles%\Acronis**
  - 64 ビット版 Windows: **%ProgramFiles(x86)\Acronis**
  - Linux: **/usr/lib/Acronis**(この設定を変更することはできません)

デフォルト設定の変更方法の詳細については、「インストール設定の変更 (38ページ)」を参照してください。

## インストール設定の変更

デフォルトのインストール設定を変更するには、構成ファイルを編集する必要があります。

構成ファイルの名前は **settings.xml** です。ファイルは管理サーバーがインストールされているコンピュータに保存されます。ファイルは指定したインストール フォルダの **WebPage** サブフォルダにあります。デフォルトの場所は次のとおりです。

- 32 ビット版の Windows にインストールした場合: **%ProgramFiles%\Acronis\WebPage**
- 64 ビット版の Windows にインストールした場合:  
**%ProgramFiles(x86)\Acronis\WebPage**

このファイルでは次の要素に設定が保存されます。

### installed-products

Web ページに表示するコンポーネントを指定します。各コンポーネントは **product** 要素として指定されます。たとえば、次のようになります。

```
<product
  name="Agent for Windows"
  package="AcronisAgentWindows.msi"
  type="win"
  description="ディスク、ボリューム、およびファイルをバックアップするには、コンピュータにエージェントをインストールします。"
/>
```

**product** 要素には次の属性があります。

#### **name**

Web ページに表示されるコンポーネントの名前です。

#### **package**

コンポーネントのインストール パッケージの名前(.msi、.i686、または .x86\_64 ファイル)です。このファイルはインストール ファイル用のフォルダに置かれている必要があります。デフォルトのフォルダ名は **%CommonProgramFiles%¥Acronis¥RemoteInstaller** です。

#### **type**

コンポーネントのインストール対象のオペレーティング システムです。この属性に使用可能な値は **win**(Windows)および **linux**(Linux)です。

#### **description**

Web ページに表示されるコンポーネントの説明です。説明はコンポーネントの名前の下に表示されます。

### **ams**

インストール後にコンピュータが登録される管理サーバー(AMS)を指定します。たとえば、次のようになります。

```
<ams address="ManagementServer" />
```

**address** 属性は、管理サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

### **license-server**

インストール中に取得するコンポーネントのライセンスが保存されているライセンス サーバーを指定します。たとえば、次のようになります。

```
<license-server address="LicenseServer" />
```

**address** 属性は、ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

### **web-setup-settings**

コンポーネントのインストール方法を指定します。

この要素の内容は次のとおりです。

#### **acep**

コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうかを指定します。デフォルトの設定は次のとおりです。

```
<acep enabled="false" />
```

**enabled** 属性の使用可能な値は、**true**(参加を有効にする)および **false**(参加を有効にしない)です。

#### **install**

どの Windows ユーザーにコンポーネントをインストールするか、およびインストール中に必要なユーザーによる操作の程度を指定します。デフォルトの設定は次のとおりです。

```
<install for-user="all" mode="manual" />
```

**for-user** 属性の使用可能な値は、**all**(コンピュータ上のすべての Windows ユーザーにコンポーネントをインストールする)および **current**(セットアップ プログラムを起動した Windows ユーザーにのみコンポーネントをインストールする)です。

**mode** 属性は将来のバージョンで使用するために予約されています。現在使用可能な値は **manual** のみです。この値を指定すると、すべての必要なフィールドが既に入力された状態でセットアップ プログラムが実行されますが、ユーザーはインストール ウィザードの手順を実行する必要があります。

### installation-path

コンポーネントのインストール先を指定します。

この要素の内容は次のとおりです。

#### x86

32 ビット版の Windows を実行しているコンピュータのコンポーネントのインストール先を指定します。

#### x64

64 ビット版の Windows を実行しているコンピュータのコンポーネントのインストール先を指定します。

どちらの要素でも、**path** 属性によってパスを指定します。デフォルトの設定は次のとおりです。

```
<x86 path="%ProgramFiles%/Acronis" />
<x64 path="%ProgramFiles(x86)%/Acronis" />
```

Linux 用のコンポーネントは常に **/usr/lib/Acronis** ディレクトリにインストールされます。

## Web ページのポートの変更

デフォルトでは、Web ページはポート 8080 を介して使用できます。別の Web サーバーがこのポートを既に使用している場合は、別のポートを指定する必要があります。

ポート番号は、管理サーバーをインストールする際、概要画面に表示されます。ポート番号を変更するには、コンピュータの役割の選択ウィンドウで、**[Acronis コンポーネントを手動で選択する...]** チェックボックスをオンにします。その後で、対応するウィンドウでポートを指定します。

管理サーバーが既にインストールされている場合は、次のように Web サーバーを再構成することでポート番号を変更できます。

1. 次のフォルダにある **httpd.conf** ファイルを開きます。
  - 32 ビット版 Windows: **%ProgramFiles%\Common Files\Acronis\WebServer\conf**
  - 64 ビット版 Windows: **%ProgramFiles(x86)%\Common Files\Acronis\WebServer\conf**
2. **Listen** 設定の値を使用するポート番号に変更します。たとえば、**Listen 8888** と設定すると、Web ページ用にポート 8888 を使用することを意味します。
3. Web サーバーのサービスを再起動します。次のいずれかの方法で実行できます。
  - コマンド プロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
net stop AmsWebServer
net start AmsWebServer
```
  - **[サービス]** スナップインで、**[AmsWebServer]** を右クリックしてから、**[再起動]** をクリックします。

## 2.1.7 Windows におけるインストール例

### 例 1: 単一のコンピュータへのインストール

次に、ご使用のコンピュータをバックアップできる最小限のインストールを示します。

次に従って Acronis Backup & Recovery 11 をインストールします。

1. 管理者としてログオンし、セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. **[このコンピュータのデータをバックアップする]** チェックボックスをオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
5. Deduplication 機能および Universal Restore 機能のインストールに関する確認メッセージが出力されたら、**[次へ]** をクリックします。
6. **[キーを手動で入力する]** をクリックします。
7. プロダクト キーを入力するか、テキスト ファイルからインポートします。
8. デフォルトの設定 **[後からコンポーネントを登録する]** のままにします。
9. コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム(CEP)に参加させるかどうかを指定します。
10. **[インストール]** をクリックします。

インストール後:

- Acronis Backup & Recovery 11 を起動するには、デスクトップで **[ローカル コンピュータの管理]** をクリックします。

### 例 2: 多数のコンピュータへのインストール

次のようなシナリオについて考えてみます。

- ネットワーク内の多数のコンピュータをバックアップする必要があります。
- これらのコンピュータのバックアップを中央から設定および監視する必要があります。

このシナリオでは、1 つのコンピュータに管理サーバーを、バックアップ対象となる各コンピュータにエージェントをインストールする必要があります。エージェントをリモートでインストールすることもできます。

エージェントをインストールするコンピュータごとにプロダクト キーが必要です。

以上のような環境で Acronis Backup & Recovery 11 をインストールする手順は、次のとおりです。

#### 手順 1: 管理サーバーのインストール

1. 他のコンピュータを集中的に監視するためのコンピュータを選択します。このコンピュータは常に電源をオンにしておき、バックアップ対象すべてのコンピュータがアクセスできる状態にする必要があります。
2. 選択したコンピュータで、管理者としてログインし、セットアップ プログラムを起動します。
3. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
4. 使用許諾契約の内容に同意します。

5. **[物理コンピュータと仮想コンピュータのバックアップを集中的に監視および構成する]** チェックボックスをオンにします。
6. ライセンス サーバーの選択ウィンドウで次の手順を実行します。
  - a. デフォルトの設定 **[管理サーバーと共にインストールされたライセンス サーバーを使用する]** のままにします。
  - b. **[ライセンスの追加]** をクリックしてから、すべてのプロダクト キーを入力するか、テキストファイルからインポートします。
7. **[インストール]** をクリックします。

管理サーバーがインストールされたら、次の手順を実行して、バックアップする各コンピュータにエージェントをリモートでインストールします。これにより、各コンピュータを集中管理できる準備が整います。

## 手順 2: エージェントのリモート インストール

1. リモート インストールするコンピュータの準備 (27ページ)を行ってください。
2. 管理サーバーが存在するコンピュータのデスクトップで **[Acronis Backup & Recovery 11]** をクリックして、Acronis Backup & Recovery 11 を起動します。
3. **[管理サーバーへの接続]** をクリックします。現在のコンピュータの名前を指定します。
4. **[すべてのコンピュータの操作]** で、**[複数のコンピュータの追加]** をクリックします。
5. コンピュータの選択ウィンドウで、**[ネットワークから]** をクリックします。
6. バックアップするコンピュータを選択します。現在のコンピュータも選択することをお勧めします。各コンピュータに対して、そのコンピュータ上の管理者のユーザー名およびパスワードを指定します。すべてのコンピュータに共通の管理者アカウント(ドメイン管理者のアカウントなど)がある場合、そのアカウントを指定してから、**[すべてのコンピュータに適用する]** をクリックします。
7. コンポーネントの一覧で、**[Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows]** を選択してから、**[次へ]** をクリックします。
8. **[ライセンスの選択]** ウィンドウで、**[次のライセンス サーバーにあるライセンスを使用する]** をクリックします。**[IP/名前]** で現在のコンピュータを指定します。**[次へ]** をクリックします。
9. **[インストール オプション]** ウィンドウでは、デフォルト設定のままにします。
10. **[実行]** をクリックします。

### インストール後:

- コンピュータを集中管理するには、デスクトップで、**[Acronis Backup & Recovery 11]** をクリックしてから、**[管理サーバーへの接続]** をクリックします。
- コンピュータを個別に管理するには、各コンピュータに直接接続します。デスクトップで **[Acronis Backup & Recovery 11]** をクリックしてから、**[このコンピュータの管理]** または **[リモート コンピュータの管理]** をクリックします。

## 2.1.8 Acronis ライセンス サーバーのインストール

ライセンス サーバーは、Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーと統合されます。このライセンス サーバーを使用することをお勧めします。

ライセンス サーバーを個別のコンポーネントとしてインストールする場合は、次の手順を実行します。

## ライセンス サーバーを個別のコンポーネントとしてインストールするには

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. **[Acronis コンポーネントを手動で選択する...]** チェックボックスをオンにし、**[次へ]** をクリックします。
5. コンポーネントの一覧の **[その他のコンポーネント]** の下で、**[ライセンス サーバー]** チェックボックスをオンにし、**[次へ]** をクリックします。  
**[ファイルからキーのインポート]** をクリックして、プロダクト キーの一覧が含まれているファイルを指定します。複数のファイルを 1 つずつ指定することも、プロダクト キーを手動で入力することもできます。  
詳細追加のプロダクト キーは、キーを含むファイルを指定するか、キーを手動で入力することによって、エージェントのインストール時に後でいつでもインポートできます。
6. **[インストール先:]** と **[インストールの対象:]** のデフォルト値を使用します。
7. インストールを続けます。

## 2.2 Linux でのインストール

ここでは、Linux を実行しているコンピュータに Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントをインストールする方法について説明します。

コマンドライン パラメータを使用すると、無人インストール モードで製品をインストールできます。

### 2.2.1 準備

#### RPM パッケージ マネージャ

RPM パッケージ マネージャ(RPM)がシステムにインストールされていることを確認してください。RPM を使用していない Linux ディストリビューション(Ubuntu など)に製品をインストールする場合は、インストールの前に、次のコマンドを実行するなどして RPM を手動でインストールする必要があります。

```
sudo apt-get install rpm
```

RPM をインストール済みの Linux ディストリビューションには、Red Hat Enterprise Linux、Fedora、SUSE Linux Enterprise Server などがあります。

#### Linux パッケージ

**gcc**、**kernel**、**kernel-headers**、および **kernel-devel** の Linux パッケージをシステムにインストールする必要があります。これらのパッケージの名前は、Linux ディストリビューションによって異なります。

- パッケージを Red Hat Enterprise Linux または Fedora にインストールするには、次のコマンドをルート ユーザーとして実行します。

```
yum install -y gcc kernel kernel-headers kernel-devel
```

- Ubuntu では、通常は必要なパッケージが既にインストールされています。Acronis Backup & Recovery 11 をインストールする前に次のコマンドを実行することをお勧めします。

```
sudo apt-get update
```

- 他の Linux ディストリビューションについては、これらのパッケージの名前およびインストール方法に関してディストリビューションのドキュメントを参照してください。

## インストール ファイル

インストールする前に、インストール ファイルをダウンロードして、必要なアクセス許可を割り当てる必要があります。

1. アクロニスの Web サイトにアクセスします。
2. コンピュータのプラットフォームおよび使用する Acronis Backup & Recovery 11 のエディションに応じて、1 つ以上のインストール ファイル(.i686 または .x86\_64 ファイル)をダウンロードします。
3. Acronis Backup & Recovery 11 をインストールするコンピュータのディレクトリにインストール ファイルをコピーします。
4. インストール ファイルをコピーしたディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
chmod 777 ABR11*
```

## 2.2.2 アドバンスド エディションでの対話型インストール

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux または Acronis ブータブル メディア ビルダをインストールする手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のライセンス、および(オプションで)Universal Restore や Deduplication のライセンスがあることを確認します。ライセンスを Acronis ライセンス サーバーにインポートすることができます。
2. ルート ユーザーとして、対応するインストール ファイル(.i686 または .x86\_64 ファイル)を実行します。
3. 次のいずれかの方法でプロダクト キーを指定します。
  - ライセンス サーバーの DNS 名または IP アドレスを入力します。
  - Acronis Backup & Recovery 11 のプロダクト キーを入力します。同様に、Universal Restore または Deduplication 機能のプロダクト キーも追加できます(購入した場合)。
4. コンピュータ用に Deduplication 機能または Universal Restore 機能をインストールするかどうかを指定します。

---

**注意:** Acronis Backup & Recovery 11 の製品版をインストールしている場合にのみ、Deduplication 機能を有効にする必要があります。試用版を使用している場合、Deduplication は既に有効になっています。

5. エージェント for Linux をインストールする場合は、管理サーバーにコンピュータを登録するかどうかを指定します。後で、コンピュータの名前または IP アドレスを使用して、コンピュータを管理サーバーに追加することもできます。
6. Linux カーネル用に SnapAPI モジュールをコンパイルするかどうかの確認が求められます。**【続行】** を選択してすぐにモジュールをコンパイルするか(推奨)、**【スキップ】** を選択して後から手動でコンパイルします。

---

**注意:** セットアップ プログラムで Linux ディストリビューションに必要なモジュールをコンパイルできなかったり、モジュールを後から手動でコンパイルしたりする場合は、`/usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/HOWTO.INSTALL` を参照してください。

**Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールをインストールする手順は、次のとおりです。**

1. ルート ユーザーとして、管理コンソールのインストール ファイル(.i686 または .x86\_64 ファイル)を実行します。
2. 画面の指示に従います。

### 2.2.3 無人モードでのインストール

確認を求められない無人モードでコンポーネントをインストールするには、コンポーネントのインストール ファイルを **-a** コマンドライン パラメータで実行します。場合によっては、他のパラメータ (45 ページ)を使用してインストールの実行方法を指定する必要があります。

無人インストールの 2 つの例を次に示します。どちらの例も、インストール ファイルの名前が ABR11AgentLinux.i686 であると仮定しています。

**例 1: プロダクト キーを指定した無人インストール。**この例は、Acronis Backup & Recovery 11 のすべてのエディションに適用されます。

次のコマンドは、プロダクト キー 12345-67890-ABCDE を使用して、無人モード(確認を求められません)で Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux をインストールします。

```
./ABR11AgentLinux.i686 -a -i BackupAndRecoveryAgent -I 12345-67890-ABCDE
```

**例 2: ライセンス サーバーを指定した無人インストール。**この例は、Acronis Backup & Recovery 11 のアドバンスド エディションにのみ適用されます。

コマンドの例:

- このコマンドは、Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux を無人モードでインストールします。
- コンピュータ **licensesrv** 上にある Acronis ライセンス サーバーと、Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server エディションのプロダクト キーを使用します。
- インストールが完了したら、コンピュータ **managementsrv** 上にある Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーにコンピュータを登録します。

```
./ABR11AgentLinux.i686 -a -i BackupAndRecoveryAgent -L licensesrv -P AS -C managementsrv -g srvadmin -w PassWd123
```

### 2.2.4 コマンドライン パラメータ

Acronis Backup & Recovery 11 のインストール ファイルを実行する際、1 つ以上のコマンドライン パラメータを指定できます。

#### パラメータ

特に説明しない限り、パラメータはすべてのインストール ファイルで指定できます。

**-a** または、**--auto**

デフォルトの対話型モードではなく、いわゆる無人セットアップ モードでインストールを実行します。

セットアップ プログラムは、プロダクト キーの入力や **[次へ]** のクリックなどのユーザーによる操作を要求せずに続行されます。

このパラメータを使用する場合は、`-i` パラメータを使用して、インストールするコンポーネントを指定する必要があります。

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux または Acronis Backup & Recovery 11 ブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダのインストール ファイルを実行する場合、ライセンス サーバーまたはプロダクト キーも、それぞれ `-L` または `-I` を使用して指定する必要があります。

SnapAPI モジュールのコンパイルが必要で、コンパイルが可能な場合は、セットアップ プログラムは自動的にモジュールをコンパイルします。それ以外の場合は、コンパイルをスキップします。

#### `-n` または `--nodeps`

無人セットアップ中の依存関係を無視します。このオプションは無人セットアップ モードでのみ有効です(前述のパラメータ `-a` を参照)。

#### `-u` または `--uninstall`

コンポーネントをインストール解除します。プロダクト キーまたはライセンス サーバーを指定する必要はありません。

#### `-s` または `--disable-native-shared`

システム内に存在するライブラリの代わりに、インストール中にセットアップ プログラム独自の再配分可能なライブラリを強制的に使用します。

再配分可能なライブラリは、内部ツールの標準のセットです。プログラムは、ユーザー インターフェイスの表示などにこれらのライブラリを使用します。

セットアップ プログラムは、必要なすべてのライブラリのコピーを含んでいます。デフォルトでは、システム内にこのライブラリが存在していない場合のみライブラリのコピーを使用します。このパラメータを使用すると、セットアップ プログラムで常にコピーが使用されます。

セットアップ プログラムのユーザー インターフェイスが正しく表示されない場合など、インストールに問題が発生した場合にこのパラメータを使用することができます。

#### `-d` または `--debug`

インストール ログに詳細な情報を書き込みます。

#### `-i <コンポーネント名>` または `--id=<コンポーネント名>`

アドバンスド エディションではこのパラメータを指定する必要はありません。このパラメータは、Acronis Backup & Recovery 11 Server for Linux のインストール ファイルのコマンドラインパラメータとの一貫性を確保するために存在します。

インストールするコンポーネント名を指定します。

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux の場合:

**BackupAndRecoveryAgent**

Acronis Backup & Recovery 11 ブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダ:

**BackupAndRecoveryBootableComponents**

Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールの場合: **ManagementConsole**

名前は大文字/小文字が区別されます。

#### `-e {0|1}` または `--ssl={0|1}`

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のインストール ファイルにのみ適用されます。

他のコンポーネントに接続するための認証を有効にするかどうかを指定します。認証は、SSL(Secure Socket Layer)証明書を使用して実行されます。

次の値を指定できます。

0: 認証を使用しない

1: 認証を使用する

**-C <管理サーバー>** または **--ams=<管理サーバー>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のインストール ファイルにのみ適用されます。

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

このパラメータを使用するときは、管理サーバー管理者のユーザー名とパスワードをそれぞれ **-g** および **-w** パラメータを使用して指定する必要があります。

インストールの完了後、コンピュータは自動的に管理サーバーに登録されます。

**-g <ユーザー名>** または **--login=<ユーザー名>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のインストール ファイルにのみ適用されます。

**<管理サーバー>** で指定した管理サーバー上にある **Acronis Centralized Admins** グループのメンバのユーザー名を指定します。

**-w <パスワード>** または **--password=<パスワード>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のインストール ファイルにのみ適用されます。

**<ユーザー名>** で指定した名前のユーザーのパスワードを指定します。

**-p <ポート番号>** または **--port=<ポート番号>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux のインストール ファイルにのみ適用されます。

他の Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントへの接続に使用する TCP ポートの番号を指定します。デフォルトのポート番号は 9876 です。

**--aur**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 11 のブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダにのみ適用されます。

Universal Restore 機能を有効にします。**-I** または **-L** パラメータを使用してこの機能のプロダクト キーを指定する必要があります(このセクションの後の説明を参照してください)。

**注意:** この機能は、Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition では既に有効になっています。

**--dedup**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 11 のブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダにのみ適用されます。

Deduplication 機能を有効にします。**-I** または **-L** パラメータを使用してこの機能のプロダクト キーを指定する必要があります(このセクションの後の説明を参照してください)。

**注意:** この機能は、Acronis Backup & Recovery 11 の試用版では既に有効になっています。

**-I <プロダクト キー>** または **--serial=<プロダクト キー>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 11 のブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダにのみ適用されます。

コンポーネントの製品 キーを指定します。このパラメータまたは **-L** パラメータを使用します。

Deduplication 機能または Universal Restore 機能を有効にする場合は(前述の **--aur** および **--dedup** パラメータを参照してください)、次のようにカンマで区切って対応する製品 キーも指定します。

**-l 11111-AAAAA,22222-DDDDD,33333-UUUUU**

#### **-L** <ライセンス サーバー> または **--license-server=<ライセンス サーバー>**

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 11 のブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダにのみ適用されます。

Acronis ライセンス サーバーの名前または IP アドレスを指定します。このパラメータまたは **-l** パラメータを使用します。

このパラメータを使用するときは、**-P** パラメータを使用して、Acronis Backup & Recovery 11 のエディションのコードを指定する必要があります。

#### **-P** <製品エイリアス>

Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Linux と Acronis Backup & Recovery 11 のブータブル コンポーネントおよびメディア ビルダにのみ適用されます。

Acronis Backup & Recovery 11 のエディションのコード(製品エイリアスとも呼ばれます)を指定します。コードは次のとおりです。

Acronis Backup & Recovery 11 Advanced Server: **AS**

Acronis Backup & Recovery 11 Virtual Edition: **VE**

#### **-v** または **--version**

製品のバージョンを表示して終了します。

#### **-?** または、**--help**

ヘルプを表示して終了します。

#### **--usage**

使用方法に関する簡単なメッセージを表示して終了します。

## 2.3 エージェント for ESX(i) のインストール

エージェント for ESX(i) は、ゲスト システムにエージェントをインストールすることなく、ESX(i) 仮想コンピュータのバックアップと復元を可能にします。

このエージェントは、次の 2 つのバージョンで提供されます。

- エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)は VMware ESX(i) ホストにインポートまたは配置することができます。
- バックアップの負荷を軽減するために、エージェント for ESX(i)(Windows)を Windows コンピュータにインストールすることができます。

## 準備

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをインストールしてから、エージェント for ESX(i) をインストールすることを強くお勧めします。エージェントのインストール中、エージェントの登録、またはライセンス サーバーの要求にはすべて(別にインストールしたライセンス サーバーの使用を選択した場合を除き)、管理サーバーを指定します。

### エージェント for VMware vSphere ESX(i)(仮想アプライアンス)

エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)は次の 3 つの方法でインストールすることができます。

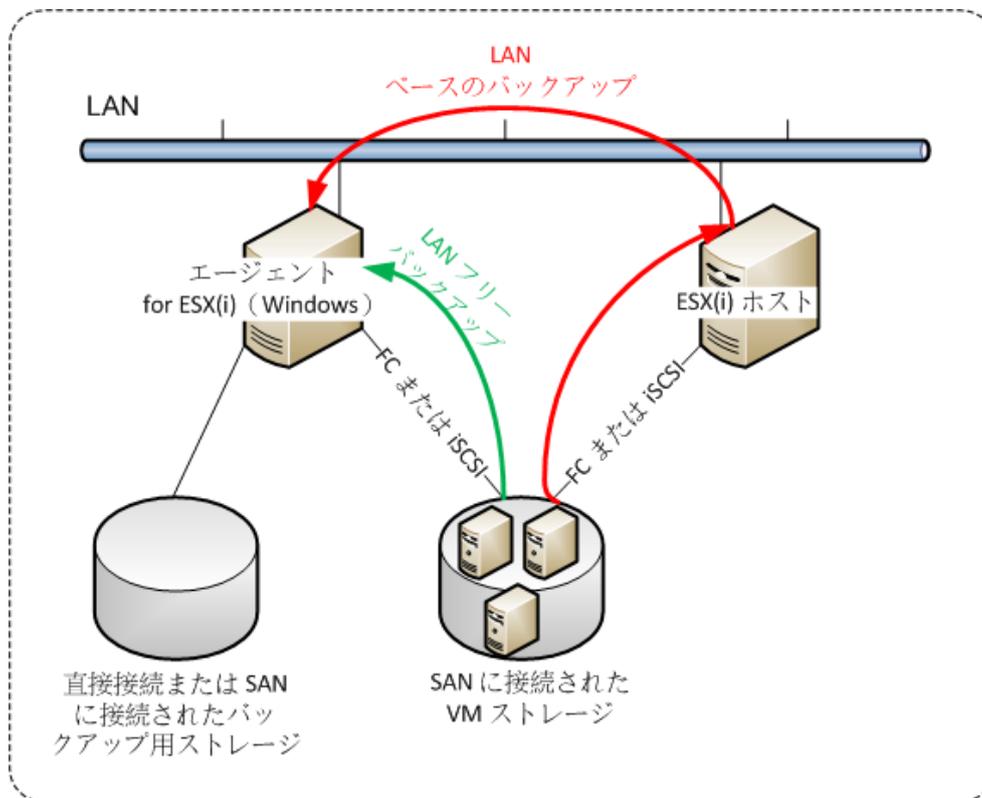
- OVF テンプレートとして ESX(i) ホストにインポート (51ページ)します。  
トラブルシューティングを行う場合、または何らかの理由により Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをインストールできない場合、この方法を使用します。
- Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーから指定したホストまたはクラスタに配置します。  
コンソールを管理サーバーに接続します。[ナビゲーション] ツリーで、[仮想コンピュータ] を右クリックしてから [エージェント for ESX(i) を配置する] をクリックします。手順の詳細については、コンテキスト ヘルプをご参照ください。
- Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーから自動的に配置します。  
この方法が最も簡単です。ほとんどの場合、この方法をお勧めします。コンソールを管理サーバーに接続します。[ナビゲーション] ツリーで、[仮想コンピュータ] を右クリックし、[VMware vCenter 統合を設定する] をクリックします。vCenter サーバーを指定し、[自動配置] を有効にします。バックアップする仮想サーバーが選択されてもそのホストにエージェントがインストールされていない場合は常に、バックアップの開始時に仮想アプライアンスがそのホストに自動的に配置されます。

### エージェント for ESX(i)(Windows)

運用 ESX(i) ホストの負荷が非常に高く、仮想アプライアンスの実行が望ましくない場合、ESX インフラストラクチャ外部にある物理コンピュータへのエージェント for ESX(i)(Windows)のインストールを検討してください。

使用している ESX(i) で SAN に接続されたストレージが使用されている場合は、このエージェントを、同じ SAN に接続されたコンピュータにインストールします。エージェントは、ESX(i) ホストおよび LAN を経由せずにストレージから仮想コンピュータを直接バックアップします。この機能は、LAN フリー バックアップと呼ばれます。

下の図は、LAN ベースのバックアップと LAN フリー バックアップを示しています。ファイバ チャンネル(FC)または iSCSI ストレージ エリア ネットワークがある場合は、仮想コンピュータに LAN フリー アクセスすることができます。バックアップされたデータが LAN 経由で絶対に転送されないようにするには、バックアップをエージェントのコンピュータのローカル ディスク、または SAN に接続されたストレージに保存します。



エージェント for ESX(i)(Windows)は、Windows を実行し、システム要件 (14ページ)を満たしている任意のコンピュータにインストールすることができます。「アドバンスド エディションでの対話型インストール (19ページ)」セクションの手順に従ってください。

インストール中に、エージェントによってバックアップされる仮想コンピュータを含む vCenter サーバーまたは ESX(i) サーバーを指定します。

この設定は、後で設定または変更することができます。エージェントをインストールした後にこの設定にアクセスするには、エージェントがインストールされているコンピュータにコンソールを接続し、トップメニューから [オプション] > [コンピュータ オプション] > [エージェント for VMware vSphere ESX(i)(Windows)] を選択します。

## ライセンスの提供

インストール時にはどの方法でもライセンスを消費しません。ライセンスは後で必要になります。仮想コンピュータの最初のバックアップを設定すると、選択したバックアップするコンピュータをホストする各 ESX(i) サーバーに 1 つのライセンスが割り当てられます。

n 個の ESX(i) サーバーがある場合は、n 個の Virtual Edition ライセンスを購入し、最初のバックアップを設定する前にそれらをライセンス サーバーまたは管理サーバーにインポートすることをお勧めします。仮想サーバーを環境に追加する予定がある場合は、事前に余分のライセンスを追

加でアップロードします。これにより、バックアップ計画に含まれるコンピュータが新しいサーバーに移行された場合でもバックアップ計画の処理が中断されません。

### 2.3.1 エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)のインポート

トラブルシューティングを行う場合、または何らかの理由により Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをインストールできない場合、この方法を使用します。その他の場合はすべて、前のセクションで説明した手順に従ってください。

#### 手順 1: OVF テンプレートの取り出し

1. Windows を実行しているコンピュータで、Acronis Backup & Recovery 11 セットアップ プログラムを起動します。
2. **[インストール ファイルの取り出し]** をクリックします。インストール パッケージの一覧で、**[ESX(i) 仮想アプライアンス エージェント(AcronisVirtualAppliance.msi)]** チェック ボックスをオンにします。  
ヒント: 代わりに、**[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックして、**[Acronis コンポーネントを手動で選択する...]** チェックボックスをオンにしてから、コンポーネントの一覧で **[エージェント for ESX(i) (Virtual Appliance)]** チェックボックスをオンにします。インストールを完了して、手順 3 および 4 をスキップします。
3. **[取り出し先]** に、仮想アプライアンスのインストール パッケージを取り出すフォルダを指定し、**[取り出し]** をクリックします。
4. インストール パッケージを実行します。

インストールが完了すると、仮想アプライアンスのファイルはフォルダ %ProgramFiles%\Acronis\ESXAppliance に置かれます。異なるコンピュータで vSphere クライアントを実行する場合、このフォルダを読み込み用に共有します。

#### 手順 2: OVF テンプレートの配置

1. vSphere クライアントを起動し、ESX(i) サーバーにログインします。
2. **[ファイル]**メニューで**[OVF テンプレートのデプロイ]**をポイントします。**Deploy OVF Template** ウィザードに従います。  
ヒント:VMware Infrastructure で、**[仮想アプライアンス]** を選択してから、**[インポート]** をクリックします。**仮想アプライアンスのインポート** ウィザードに従います。
3. **[ソース]** で **[ファイルからデプロイ]** を選択して、仮想アプライアンスの OVF パッケージのパス(通常は、「%ProgramFiles%\Acronis\ESXAppliance」)を指定します。
4. **[OVF Template Details]**を確認して、**[Next]**をクリックします。
5. **[名前と場所]** に、アプライアンスの名前を入力するか、デフォルト名 **AcronisESXAppliance** のままにします。
6. **[ネットワーク マッピング]** で、ネットワーク アダプタのブリッジ モードを選択します。
7. **[データストア]**で、仮想アプライアンス用の領域が不足している場合を除き、デフォルトのデータストアのままにします。領域が不足している場合には、別のデータストアを選択します。サーバーにあるデータストアが 1 つだけの場合は、この手順をスキップします。
8. 概要を確認して、**[完了]**をクリックします。配置の正常終了が報告されたら、進行状況のウィンドウを閉じます。

## 手順 3: 仮想アプライアンスの設定

### 1. 仮想アプライアンスの起動

vSphere クライアントで、**[インベントリ]** を表示し、仮想アプライアンスの名前を右クリックしてから、**[パワー]** > **[パワー オン]** をクリックします。

**[コンソール]** タブをクリックします。仮想アプライアンスの Welcome 画面に次の操作の指示が表示されます。**[Close]** をクリックします。この画面には、仮想アプライアンス GUI でヘルプ ボタンをクリックするといつでもアクセスできます。

**Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for VMware vSphere ESX(i)** の画面が表示されます。ここで、エージェントの構成を続けます。

### 2. タイムゾーン

**[仮想コンピュータ]** の下の **[タイムゾーン]** で **[変更]** をクリックし、管理コンソールがインストールされている場所のタイムゾーンを選択します。

ESX(i) サーバーは常に、GMT タイムゾーンで動作します。仮想アプライアンスは ESX サーバーにインポートされるときに、ESX サーバーの GMT タイムゾーンを継承します。コンソールが別のタイムゾーンで動作している場合、コンソールを使用してスケジュールしたタスクが適切な時刻に実行されるように、仮想アプライアンスをコンソールと同期させる必要があります。

### 3. vCenter/ESX(i)

**[エージェント オプション]** の下の **[vCenter/ESX(i)]** で、**[変更]** をクリックして、vCenter サーバー名または IP アドレスを指定します。エージェントが、vCenter サーバーによって管理されるすべての仮想コンピュータをバックアップおよび復元できるようになります。

vCenter サーバーを使用していない場合、仮想コンピュータをバックアップおよび復元したい ESX(i) ホストの名前または IP アドレスを指定します。通常、エージェントが、自分のホストに存在する仮想コンピュータをバックアップする場合、そのバックアップは速くなります。

エージェントが vCenter サーバーまたは ESX(i) への接続に使用するログイン情報を指定します。アカウントには vCenter サーバーまたは ESX(i) でのバックアップおよび復元に必要な権限を割り当てることをお勧めします。**[接続の確認]** をクリックすると、このログイン情報が正しいかどうかを確認できます。

これで仮想アプライアンスを動作させる準備が整いました。さらに、次の設定を変更することができます。

#### ■ ネットワーク設定

エージェントのネットワーク接続は DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)を使用して自動的に設定されます。デフォルトの構成を変更するには、**[エージェント オプション]** の下の **[eth0]** で **[変更]** をクリックして、必要なネットワーク設定を指定します。

#### ■ ローカルストレージ

追加のディスクを仮想アプライアンスに接続して、エージェント for ESX(i) によるバックアップ先を、ローカルに接続されたこのストレージにすることが可能です。通常、この方法でバックアップすると LAN 経由のバックアップより高速で実行でき、ネットワークの帯域幅を消費することはありません。

仮想ディスクサイズは 10 GB 以上必要です。仮想コンピュータの設定を編集してディスクを追加し、**[更新]** をクリックします。**[ストレージの作成]** リンクが使用できるようになります。このリンクをクリックし、ディスクを選択して、そのディスクのラベルを指定します。

---

既存のディスクを追加するタイミングには注意してください。ストレージを作成すると、既存のディスクに存在していたデータはすべて失われます。

---

## 手順 4: 管理サーバーへの仮想アプライアンスの追加

ホストから仮想コンピュータをバックアップできるようにするためのコンポーネントの最小構成には、管理コンソール、ライセンス サーバー、およびエージェントが含まれます。この構成では、コンソールとエージェントの直接接続を使用して、仮想コンピュータをバックアップおよび復元できます。

ただし、アクロニスは、ESX(i) ホストが 1 つしかなくても、Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをインストールおよび使用することを強くお勧めします。管理サーバーを使用すれば、エージェントを簡単に配置およびアップデートでき、仮想コンピュータのバックアップを設定および監視できます。パフォーマンスを向上させるために、複数のエージェントが同じホストを管理するように設定すると、管理サーバーによって、それらのエージェントに仮想コンピュータが自動的に分散されます。これは、各エージェントの負荷を均等にして、2 つのエージェントが 1 つの仮想コンピュータを同時にバックアップしようとした場合に発生する可能性があるスナップショットの競合を避けるうえで必要です。

管理サーバーを使用する場合は、管理サーバー上で仮想アプライアンスを登録します。

仮想アプライアンスを管理サーバーに追加する手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup & Recovery 11 管理コンソールを起動します。
2. 仮想アプライアンス コンソールに表示される IP アドレスを使用し、管理コンソールを仮想アプライアンスに接続します。
3. トップ メニューから **[オプション]** > **[コンピュータ オプション]** > **[コンピュータの管理]** を選択します。
4. **[集中管理]** を選択し、管理サーバーの IP アドレスまたは名前を指定します。**[OK]** をクリックします。
5. 管理サーバーの管理者アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。**[OK]** をクリックします。

または、アプライアンスをサーバー側の管理サーバーに追加することもできます。

### 2.3.2 エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)のアップデート

#### 管理サーバーからのアップデート

このアップデート方法は、管理サーバー上に登録されている仮想アプライアンスのみに使用できません。この方法では、エージェントが管理している仮想コンピュータに関連するすべての構成設定(ローカル バックアップ計画、集中管理用バックアップ計画、およびグループ メンバシップ)が保持されるため、このセクションで後述する手動手順を実行する場合に最適です。

管理サーバーから仮想アプライアンスをアップデートするには

1. 管理コンソールと管理サーバーをアップデートします。
2. コンソールを管理サーバーに接続します。
3. **[ナビゲーション]** ツリーで、vCenter サーバーと同じ名前のグループを右クリックします。VMware vCenter 統合が無効の場合は、**[仮想コンピュータ]** を右クリックします。
4. **[エージェント for ESX(i) をアップデートする]** をクリックします。
5. アップデートするエージェントを選択します。すでに最新バージョンのエージェントは選択できません。
6. **[エージェント for ESX(i) をアップデートする]** をクリックします。

仮想アプライアンスがアップデートされます。エージェントの構成設定は保持されます。

## 手動アップデート

仮想アプライアンスの手動アップデートでは、新しいアプライアンスのインストールと古いアプライアンスの削除を行います。この方法は、何らかの理由により管理サーバーからアップデートできない場合にのみ実行してください。

仮想アプライアンスを手動でアップデートした後は、そのアプライアンス上に存在していたローカルバックアップ計画を再作成する必要があります。

### 仮想アプライアンス(VA)を手動でアップデートするには、次の手順に従います

1. 「エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)のインポート (51ページ)」に従って、新しい VA をインストールおよび設定します。
2. ESX(i) サーバーから古い仮想アプライアンスを削除 (61ページ)します。
3. (オプション)VA に存在していたローカルのバックアップ計画を引き続き使用する場合は、**ローカルのバックアップ計画を再作成**します。
4. (オプション)[**エージェントによってバックアップされるすべての VM**] 条件が使用されている**ダイナミック グループ**内で、コンピュータのメンバシップを再確立します。メンバシップを再確立するには、グループの条件にアップデートされた VA を指定します。

**詳細:**アップデート中に古い VA が管理サーバーから削除されるので、上記のようなダイナミック グループ内におけるコンピュータのメンバシップは失われます。

集中管理用バックアップ計画に静的カスタム グループや動的カスタム グループを再追加する必要はありません。グループ内のコンピュータのメンバシップを再確立すると同時に、適切なバックアップ計画によって引き続きコンピュータが保護されます。

## 2.4 エージェント for Hyper-V のインストール

エージェント for Hyper-V により、仮想コンピュータにエージェントをインストールしなくても、Hyper-V ホストから仮想コンピュータのバックアップおよび復元を行うことができます。

### 準備

**ライセンス:**十分な数の Virtual Edition のライセンスがあることを確認します。Hyper-V ホストごとにライセンスが 1 つ必要です。Hyper-V クラスタ(フェイルオーバー クラスタとも呼ばれます)を使用している場合は、クラスタのノードごとにライセンスを取得することをお勧めします。

**管理サーバー:**Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをインストールしてライセンスをインポートすることをお勧めします。Hyper-V クラスタを使用している場合は、管理サーバーをインストールすることで、実行されているノードに関係なくクラスタ化された仮想コンピュータをバックアップできるようにします。

### インストール

Hyper-V ホストにエージェントをインストールします。Hyper-V クラスタ内で、クラスタの各ノードにエージェントをインストールします。

- Windows 2008/2008 R2 では、セットアップ プログラムからエージェントをインストールする (19ページ)ことができます。**[このコンピュータのデータをバックアップする]** チェックボックスをオンにして、画面の指示に従います。
- Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2 では、リモートでエージェントをインストールする (27ページ)ことができます。

エージェントをインストールするときには、手動でプロダクト キーを入力するか、管理サーバーまたはライセンス サーバーを指定することでプロダクト キーを提供します。

Acronis Managed Machine Service(エージェント)のアカウント情報の入力を要求されたら、Hyper-V クラスターのすべてのノードに対する管理者権限のあるドメイン ユーザーのアカウントを指定します。このアカウントを使用して、エージェントはどのノードの仮想コンピュータにもアクセスできるようになります。また、このエージェントに新しいアカウントを作成することもできます。その後、集中管理用バックアップ計画または復元タスクを作成するときに、必要な権限を持つドメイン アカウントに対するログイン情報を指定する必要があります。

管理サーバーをインストールした場合は、インストール中に管理サーバーへのエージェントの登録を選択します。

## 3 試用版から完全製品版へのアップグレード

インストールに必要な試用版のプロダクト キーは、アクロニスの Web サイトで入手できます。

試用版から標準の製品にアップグレードするために、ソフトウェアを再ダウンロードする必要はありません。試用期間が終了すると、製品の GUI に標準のプロダクト キーを指定するように求める通知が表示されます。

標準のプロダクト キーを指定するには、管理コンソールの **[ライセンスの変更]** ウィンドウを使用します。セットアップ プログラムを実行することによって標準のキーを指定することはできません。

### 3.1 試用版の制限

Acronis Backup & Recovery 11 の試用版には、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能は使用できません。ユーザー インターフェイスを試用することはできますが、変更を適用するオプションはありません。
- 復元機能は使用できますが、バックアップ機能は使用できません。バックアップ機能を試用するには、本ソフトウェアをオペレーティング システムにインストールしてください。

### 3.2 ライセンスの変更

ライセンスを変更することで、異なるバージョンまたはエディションの製品に切り替えます。次の表は、使用可能なオプションを示しています。

ライセンスの切り替え	切り替えが必要な理由
試用版 > 製品版	試用版から製品版にアップグレードする。
試用版 > 試用版の異なるエディション	個々のニーズにより適したエディションを明確にする。
試用版 > 製品版の異なるエディション	購入したエディションが試用版のエディションとは異なる。

Acronis Deduplication や Acronis Universal Restore が切り替え先のバージョンやエディションで利用可能な場合は、追加のライセンスを使用することで、これらを有効にすることもできます。

アドバンスド エディションとスタンドアロン版の間で切り替えを行うことはできません。

#### アドバンスド エディションの製品版に切り替える前に

多数のコンピュータでライセンスを変更する予定の場合は、Acronis ライセンス サーバーに製品版のライセンスを追加(インポート)することをお勧めします。

試用版では **Acronis Deduplication** が常に有効になっています。この機能を引き続き使用する場合は、必ず次の手順を実行してください。

1. Acronis Deduplication のライセンスを購入します。
2. Acronis Deduplication のプロダクト キーをライセンス サーバーにインポートします(推奨)。

3. Acronis Backup & Recovery 11 が製品版にアップグレードされたすべてのコンピュータについて 1 つずつ Acronis Deduplication ライセンスを使用します。

この手順は後でいつでも実行できますが、実行するまでは非重複化された格納域へのバックアップは失敗します。

**アドバンスド エディションでライセンスを変更する手順は次のとおりです。**

1. 次のいずれかを実行します。
  - コンソールをコンピュータに接続して、[ヘルプ] > [ライセンスの変更] をクリックします。
  - コンソールを管理サーバーに接続し、[エージェントがインストールされているコンピュータ]、[仮想コンピュータ] に移動するか、変更するライセンスが含まれるコンピュータを表示する別のグループに移動し、そのコンピュータを右クリックして、[ライセンスの変更] をクリックします。
2. 次のいずれかを実行します。
  - 現在使用されているライセンスが、ライセンス サーバーに保存されている場合は、変更先のエディションを選択します。このエディションの Acronis Deduplication または Acronis Universal Restore ライセンスがライセンス サーバー上で使用可能な場合は、それらの各ライセンスを使用するかどうかを指定します。ライセンス サーバーに 1 つ以上のライセンスを追加するには、[ライセンスの追加] をクリックします。
  - ライセンス サーバーを使用しない場合は、プロダクト キーを手動で入力します。

Windows を実行している複数のコンピュータでライセンスを変更する場合は、リモート インストール機能 (27ページ)を使用することをお勧めします。

## 4 ソフトウェアのアップデートの確認

管理コンソールを開始するたびに、Acronis Backup & Recovery 11 によって、Acronis Web サイトにソフトウェアの新しいバージョンがあるかどうかを確認されます。新しいバージョンが見つかった場合、新しいバージョンのセットアップ プログラムをダウンロードするためのリンクが提供されます。

アップデートを手動で確認するには、管理コンソールを開始し、**[ヘルプ] > [アップデートの確認]** をクリックします。このウィンドウで、アップデートの自動確認を無効にすることもできます。

Acronis Backup & Recovery 11 のアップデートの詳細については、「**アップデート**」セクション (26 ページ)(Windows でのローカル インストールについて)または対応するインストール セクション (他のインストール方法について)を参照してください。

## 5 Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストール

このセクションでは、Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストールについて説明します。

### 5.1 Acronis Backup & Recovery 11 のアドバンスド エディションのアンインストール

Acronis ライセンス サーバー上のライセンスを使用しているコンポーネントをアンインストールしても、ライセンスはコンピュータに割り当てられたままになります。別のコンピュータに対してこのライセンスを使用したい場合、ライセンスを手動で取り消します。

#### 5.1.1 Windows でのアンインストール

##### 対話型アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11 またはそのコンポーネントをアンインストールする場合は、Windows の **[プログラムの追加と削除]** または **[プログラムと機能]** ツールではなく次の手順に従うことをお勧めします。

**Acronis Backup & Recovery 11 のすべてのコンポーネントをアンインストールする手順は、次のとおりです**

1. **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis Backup & Recovery 11 のアンインストール]** の順に選択します。
2. 関連情報を削除する場合は(後述の「関連情報の削除」を参照してください)、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。
3. **[削除]** をクリックします。

**Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントまたは機能を個別にアンインストールする手順は、次のとおりです**

1. Acronis Backup & Recovery 11 セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup & Recovery 11 のインストール]** をクリックします。
3. **[変更]** をクリックします。
4. アンインストールするコンポーネントまたは機能の名前の横にあるチェックボックスをオフにします。
5. 関連情報を削除する場合は(後述の「関連情報の削除」を参照)、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。

##### 関連情報の削除

後でコンポーネントを再インストールする場合は、関連情報をそのまま保持します。

関連情報を削除する場合は、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェックボックスをオンにします。オンにすると、次の情報が削除されます。

- Acronis Backup & Recovery 11 エージェント for Windows をアンインストールする場合: エージェントのログとタスク
- Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーをアンインストールする場合: 集中管理用バックアップ計画の設定、処理のログ、および統計データを保存している管理サーバー データベース
- Acronis Backup & Recovery 11 ストレージ ノードをアンインストールする場合: ストレージ ノードのログとタスク

## 無人アンインストール

Acronis Backup & Recovery 11 のコンポーネントまたは機能を無人モードでアンインストールするには、**msiexec** ユーティリティを実行します。このユーティリティでは、対応するインストール パッケージ(.msi ファイル)が使用されます。

### コンポーネントまたは機能をアンインストールする手順は、次のとおりです

1. 対応するインストール パッケージをフォルダまたはネットワーク共有に取り出します。
2. 次のコマンドを実行します(ここでは、インストール パッケージ AcronisAgentWindows.msi が \\myserver\share ネットワーク共有に保存されていると仮定します)。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
```

## エージェントのアンインストール

エージェントをアンインストールする場合は、機能をアンインストールしてからエージェントをアンインストールし、それから Acronis Backup & Recovery 11 エージェント コア コンポーネントをアンインストールすることをお勧めします。

たとえば、エージェントに **Universal Restore** 機能がインストールされている場合は、次の順序でアンインストール コマンドを実行します。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisUniversalRestore.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentCore.msi /qb
```

## ライセンス サーバーのアンインストール

Acronis ライセンス サーバーをアンインストールする必要がある場合は、このサーバーを使用しているすべてのエージェントをアンインストールしてから、ライセンス サーバーをアンインストールしてください。また、ライセンス サーバーは他の Acronis 製品によって使用されている場合もあります。

ライセンス サーバーは管理サーバーと統合されます。管理サーバーをアンインストールするには、次のコマンドを実行します(必要に応じてパスを変更してください)。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisManagementServer.msi /qb
```

個別のコンポーネントとしてインストールしたライセンス サーバーをアンインストールするには、次のコマンドを実行します(必要に応じてパスを変更してください)。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisLicenseServer.msi /qb
```

## 5.1.2 Linux でのアンインストール

Acronis Backup & Recovery 11 のすべてのコンポーネントをアンインストールする手順は、次のとおりです

root ユーザーとして、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、Acronis Backup & Recovery 11 コンポーネントをアンインストールします。

```
# /usr/lib/Acronis/BackupAndRecovery/uninstall/uninstall
# /usr/lib/Acronis/BootableComponents/uninstall/uninstall
# /usr/lib/Acronis/BackupAndRecoveryConsole/uninstall/uninstall
```

2. 次のコマンドを実行して、SnapAPI モジュールのソース ファイルを削除します。

```
# rm -rf /usr/src/snapapi*
```

すべてのコンポーネントを無人モードでアンインストールするには、各 `./uninstall` コマンドに `-a` パラメータを付けて実行します。

## 5.2 ESX(i) 仮想アプライアンスの削除

Acronis Backup & Recovery 11 管理サーバーでは、複数の ESX または ESXi サーバーからエージェント for ESX(i) を簡単に削除できます。このセクションで後述するように別の手順もありますが、通常はこの方法を使用します。

コンソールを管理サーバーに接続します。[ナビゲーション] ツリーで、[仮想コンピュータ] を右クリックしてから [エージェント for ESX(i) を削除する] をクリックします。手順の詳細については、コンテキスト ヘルプをご参照ください。

次のような場合は、エージェント for ESX(i)(仮想アプライアンス)、または VA を手動で削除する必要があります。

- 仮想アプライアンスが管理サーバーに登録されていません。
- vCenter サーバーを使用していないか、vCenter サーバーとの統合が有効になっていません。
- 仮想アプライアンスが破損しています。

**エージェント for VMware vSphere ESX(i)(仮想アプライアンス)を手動で削除するには**

1. VMware vSphere クライアントを起動し、ESX(i) ホストまたは vCenter サーバーにログインします。
2. VA の電源をオフにします。
3. VA が仮想ディスク上でローカルに接続されているストレージを使用しており、そのディスク上にデータを保持したい場合、次の手順を実行します。
  - a. VA を右クリックしてから、[設定の編集] をクリックします。
  - b. ストレージが存在するディスクを選択してから、[削除] をクリックします。[削除オプション] で、[仮想コンピュータから削除] をクリックします。
  - c. [OK] をクリックします。

その結果、ディスクがデータストアに保持されます。ディスクを別の VA に接続することができます。

4. VA を右クリックしてから、[ディスクから削除] をクリックします。
5. VA を管理サーバーから削除します。アプライアンスが管理サーバーに登録されていない場合、またはすでに削除されている場合は、この手順をスキップします。

VA を削除するには、管理サーバーに接続して、**[すべての物理コンピュータ]** の一覧で VA を右クリックし、**[AMS からコンピュータを削除する]** をクリックします。

## 5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup & Recovery 11 をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

### Acronis セキュア ゾーンを削除するには

1. **[アクション]** メニューで **[Acronis セキュア ゾーン管理]** をクリックします。
2. **[Acronis セキュア ゾーン削除]** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放された領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

**[OK]** をクリックすると、Acronis Backup & Recovery 11 によってゾーンの削除が開始されます。